

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.18 2006年度



The Board of Education in Oita City 2007

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.18 2006年度

The Board of Education in Oita City 2007

序 文

本書は、平成18年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査の概要を収録したものです。

大分市は、自然と都市が共存する都市環境に加え、数多くの史跡が随所に残る歴史が息づく文化都市であります。この恵まれた自然と歴史の豊かさの中で、教育委員会では、本市の基本構想である「心かよい 緑あふれる躍動都市」の実現にむけ、自然と史跡を生かしたまちづくりを推進しています。

さて本年度は、大分の歴史を紐解く重要な遺跡の調査が数多く行われました。国史跡の友友氏遺跡における範囲確認調査、同じく国史跡指定に向け範囲確認を行った横尾遺跡、城原・里遺跡、8世紀中頃から後半に位置付けられる木杵井戸跡が確認された大道路群第14次調査、中世丹生荘の荘官クラスの屋敷跡と考えられる遺構が確認された丹生川・坂ノ市条里跡第9調査地点、府内城の三ノ丸部分が調査された府内城・城下町跡第17次調査等です。

海部古墳資料館の特別展「タイムトラベラー2006 みて きいて かんじる大分の歴史」は3年目を迎え、これら最新の発掘調査の成果を、より早く、わかりやすく、楽しく学べる場所として市民の間に定着してきました。

この他、「友友氏遺跡」が指定を受けてから5年の節目となる本年度は、「中世友友再発見フォーラムⅡ」を開催し、多くの市民の参加を頂きました。今後も、友友氏遺跡の保存・活用につきましては、市民の皆様のご理解と、ご協力のもとに進めてまいります。

最後になりましたが、本書が市民の皆様、関係各位に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成19年12月28日

大分市教育委員会

教育長 足 立 一 馬

例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成18年4月1日～平成19年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容についてまとめた年報である。
2. 平成18年度における調査地点は、第2図及び第4表に示している。
3. 本書の執筆は、各調査担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第IV章受贈図書一覧は、平成18年4月1日～平成19年3月31日の間に大分市教育委員会に受贈された書籍等を掲載した。
5. 第IV章受贈図書一覧の作成は、麻生美希（大分市教育委員会文化財課臨時職員）による。
6. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、次に記す大分市教育委員会臨時職員が行った。

半田 宗子	橋本 智子	重吉のぞみ	長岡 照美
椎原加奈子	永井 美香	犬飼 和美	宮本 博子
河野 祐子	平嶋 直子	田崎由美子	松木 晴美
平田ちはる	梅田 祐子	木山 祥重	橋本千代美
佐藤 京子	倉増美智代	黒田きくみ	永井 勝代
本田かおり	中山麻里子		
7. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
8. 本書の編集・校正は、河野および各調査担当者が行った。
9. 大友氏関連遺跡の調査・名称については、その構成要素である町屋部分を「中世大友府内町跡」とし、これに「大友氏館跡」を加えた遺跡総体を「中世大友城下町跡」と呼称する。

目 次

第Ⅰ章	大分市教育委員会教育総務部文化財課概要	1
1	沿 革	1
2	組 織	1
3	大分市文化財保護審議会	2
第Ⅱ章	平成18年度事業概要	3
1	開発事前審査事業	3
2	発掘調査事業	5
3	教育普及活動	9
第Ⅲ章	発掘調査の概要	
	大友氏館跡第17次調査	11
	大友氏館跡第19次調査	11
	中世大友城下町跡第63次調査	12
	旧万寿寺地区第2・3次調査	12
	中世大友城下町跡第25-10次調査	13
	中世大友城下町跡第26-3次調査	13
	中世大友城下町跡第27-8次調査	14
	中世大友城下町跡第27-9次調査	14
	中世大友城下町跡第70次調査	15
	中世大友城下町跡第73次調査	15
	中世大友城下町跡第74次調査	16
	府内城・城下町跡第17次調査（三之丸）	16
	大道遺跡群第14次調査	17
	大道遺跡群第15次調査	17
	大道遺跡群第16次調査	18
	大道遺跡群第17次調査	18
	大道遺跡群第18次調査	18
	大道遺跡群第19次調査	19
	大道遺跡群第20次調査	19
	大道遺跡群第21次調査	19
	横尾遺跡第113次調査	20
	横尾遺跡第114次調査	20
	横尾遺跡第115次調査	21
	横尾遺跡第117次調査	21
	横尾遺跡第118次調査	21
	横尾遺跡第120-2次調査	22
	横尾遺跡第119次調査	22
	横尾遺跡第120次調査	23
	横尾遺跡第122次調査	23
	城原・里遺跡第10次調査	23
	丹生川坂ノ市条里跡（第9・10地点）	24
	丹生川坂ノ市条里跡（試掘・確認調査）	24
	丹生遺跡群（試掘・確認調査）	24
	国分遺跡	25
	玉沢地区条里跡第19次調査	27
	玉沢地区条里跡第20次調査	27
	玉沢地区条里跡第21次調査	28
	上松岡遺跡	28

高来山横穴墓群・高来山第2横穴墓群・高来山第3横穴墓群・ 漆間横穴墓群・小柳遺跡・六郎塚古墳・虎御前古墳	29
---	----

第IV章 受贈図書目録

1 調査報告書	30
2 定期刊行物・図録等	36

挿図目次

第1図 地域区分図	3
第2図 調査遺跡位置図	6
大友氏館跡第17・19次調査	
第3図 調査地点位置図	11
第4図 大友氏館跡第19次調査区全景（東より）	11
第5図 館19SX040遺物出土状況（南より）	11
中世大友城下町跡第63次調査、旧万寿寺地区第2・3次調査	
第6図 調査地点位置図	12
第7図 中世大友府内町跡第63次調査区（東より）	12
第8図 旧万寿寺地区第2次調査区円形溝遺構（北東より）	12
中世大友城下町跡第25-10・26-3次調査	
第9図 調査地点位置図	13
第10図 町25-10次調査区東壁土層	13
第11図 町26-3次調査区第2面完掘状況（南より）	13
中世大友城下町跡第27-8・27-9次調査	
第12図 調査地点位置図	14
第13図 中世大友城下町跡27-9 A次調査完掘状況（北より）	14
第14図 27-9E SD078完掘状況	14
中世大友城下町跡第70・73次調査	
第15図 調査地点位置図	15
第16図 中世大友城下町跡第73次調査区全景	15
中世大友城下町跡第74次調査、府内町・城下町跡第17次調査（三之丸）	
第17図 町74次全景写真（合成）	16
第18図 調査地点位置図	16
第19図 府17全景写真	16
大道遺跡群第14・15次写真	
第20図 調査地点位置図	17
第21図 大道14次調査区全景（西から）	17
第22図 大道15次井戸跡遺物出土状況	17
大道遺跡群第16・17・18次写真	
第23図 大道16次溝状遺構完掘状況（南西から）	18
第24図 大道17次井戸跡検出状況（東から）	18
第25図 大道18次調査区全景（西から）	18
大道遺跡群第19・20・21次写真	
第26図 大道19次掘立柱建物跡完掘状況（西から）	19
第27図 大道20次B地区全景（南から）	19
第28図 大道21次土坑遺物出土状況	19
横尾遺跡第113・114次調査	
第29図 調査地点位置図	20
第30図 113次竊跡検出状況	20
第31図 114次A・B・C区全景	20
横尾遺跡第115・117・118次調査	
第32図 115次調査区全景	21
第33図 117次道路状遺構検出状況	21

第34図	118次調査区全景	21
横尾遺跡第120-2・119次調査		
第35図	120-2次調査区全景	22
第36図	調査地点位置図	22
第37図	横尾119次調査区全景	22
第38図	横尾120次調査区全景	22
横尾遺跡第120・122次調査、城原・里遺跡第10次調査		
第39図	横尾122次調査区全景	23
第40図	城原・里調査区全景	23
第41図	調査地点位置図	23
丹生川坂ノ市条里群（第9・10地点）、丹生遺跡群（試掘・確認調査）		
第42図	調査地点位置図	24
第43図	鎌倉時代の屋敷跡	24
第44図	中世墓から出土した湖州鏡と青銅製鈴	24
国分遺跡		
第45図	調査地点位置図	25
第46図	出土遺物実測図（1/3・1/2）	25
第47図	遺構配置図	26
第48図	土器模式図	26
第49図	国分遺跡全景	26
玉沢地区条里群第19・20次調査		
第50図	調査地点位置図	27
第51図	19次全景	27
第52図	20次全景	27
玉沢地区条里群第21次調査、上松岡遺跡調査		
第53図	21次調査区全景	28
第54図	調査地点位置図	28
第55図	調査区全景空中写真（上が北）	28
第56図	中世溝SD01土層断面（南から）	28
高来山横穴墓群・高来山第2横穴墓群・高来山第3横穴墓群・		
漆間横穴墓群・小御遺跡・六郎塚古墳・虎御前古墳		
第57図	調査地点位置図	29
第58図	高来山第1号横穴詳細	29
第59図	漆間第3号横穴遺物出土	29
第60図	漆間横穴墓群遠景	29
第61図	調査区遠景	29

表目次

第1表	平成18年度開発事前審査件数一覧	4
第2表	地区別事前審査割合（件数比）	4
第3表	地区別事前審査割合（面積比）	4
第4表	平成18年度大分市発掘調査地一覧	7
第5表	平成18年度大分市確認調査地一覧	8

大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成18年4月1日現在）

【氏 名】	【勤務先・職名】	【担 当】
北 野 隆	熊本大学・教授（会長）	建 造 物
豊 田 寛 三	大分大学・教授（副会長）	近 世
下 村 智	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元 日	広島大学・助教授	古 代
鹿 毛 敏 夫	新居浜工業高等専門学校・助教授	中 世
宗 像 健 一	大分市美術館・顧問	美 術
吉 田 稔	王子中学校・元校長	植 物
渡 辺 文 雄	大分県立歴史博物館・副館長	工 芸
段 上 達 雄	別府大学・教授	民 俗
渡 部 ひ る 美	大分県立大分南高等学校・教諭	動 物

大分市文化財保護審議会条例（平成11年12月15日条例第42号）

（設 置）

第1条 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第190条第1項の規定に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。（平17条例13・一部改正）

（組 織）

第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任 期）

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

（部 会）

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶 務）

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委 任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和51年大分市条例第4号）は廃止する。

附 則（平成17年条例第13号）

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

第Ⅱ章 平成18年度事業概要

1 開発事前審査事業

(1) 平成18（2006）年度の概要

表1は平成18年度における開発申請内容を示したものである。

平成18年度の申請総面積は3,678,275.14㎡、総申請件数123件を数える。

その内訳は、開発計画事前審査申請8件、開発行為事前協議申請62件、宅地造成工事前協議申請25件、土地売買等の届出23件、森林法第10条の21第1項による開発行為の許可について1件、墓地経営に関する事前審査2件、鉱業権の出願に関する協議1件である。また、本年度は開発行為事前審査申請、大規模土地取引事前指導申請については昨年度に引き続き申請件数が0件であった。

これを平成17年度の申請内容と比較すると、総件数では約20%の増加がみられる。これは開発に直接結びつく宅地造成工事前協議申請や土地売買等の届出が増加したことが主な原因と考えられる。

次に、昨年急激に増加した申請面積は、本年もまた大幅に増加している。これは、昨年増加要因となった、森林法10条の2第1項による開発行為許可申請は減少したものの、鉱業権の出願に関する協議が行われたためであり、今年度申請面積の約85%を占める。これ以外では、明野地区、鶴崎地区、大在地区、坂ノ市地区で増加を見たものの、昨年、森林法関連や砕石法関連の申請があった大南地区は減少しており、大分地区、はほぼ横ばい状態である。

申請エリアに関しては、昨年鶴崎地区（E）が全体の4割強を占め、植田地区（B）、大分地区（A）と続いた。本年度は植田地区（B）で8割を超えたが、これは鉱業権の出願に関する協議によるものが大きく、実質的な増加とはいえない。特に実質的な開発申請である開発事前協議や宅地造成工事前協議は明野地区（D）、大分地区（A）、植田地区（B）で75%を占める。これは、今後の大分市はほぼ中心部周辺で発掘調査件数の増加の要因になると考えられる。

本年の特徴としては、昨年と同様に申請面積が増加したことがあげられる。昨年に比べ約1.8倍に増加しているが、これは前述のとおり、鉱業権の出願に関する協議によるもので、一過性のものと考えられる。それに反して、開発行為事前協議申請、宅地造成工事前協議申請、土地売買等の届出は若干減少している。件数は昨年の約1.2倍と増加しているものの、面積で約10%減となっている。これは、小規模な開発が増加したことによると思われる。

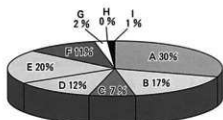
近年徐々に景気が回復傾向にあり、それに伴い開発の増加が推測される。このことと発掘調査件数の増減関係は関連しており、今後どう推移していくか注目していきたい。（塔鼻光司）



第1図 地域区分図

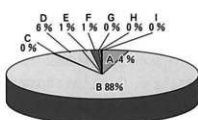
第1表 平成18年度開発事前審査件数一覧

地区名	A-大分市街地区	B-穂田地区	C-大南地区	D-明野地区	E-鶴崎地区	F-大在地区	G-坂ノ市区	H-佐賀間地区	I-野津原地区	合計
【開発計画事前審査申請】										
件数	1	3	0	2	0	1	1	0	0	8
面積 (㎡)	6,747.50	20,272.28	0	82,929.47	0	26,100.00	6,098.87	0	0	142,148.12
【開発行為事前審査申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【開発行為事前協議申請】										
件数	14	11	5	6	15	10	1	0	0	62
面積 (㎡)	32,210.62	26,365.33	3,327.86	91,268.98	30,491.86	15,600.86	6,098.87	0	0	205,364.38
【開発行為変更事前協議申請】										
件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	50,471.82	0	0	0	0	0	0	0	0	50,471.82
【大規模土地取引事前指導申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【宅地造成工事事前協議申請】										
件数	8	3	1	5	8	0	0	0	0	25
面積 (㎡)	11,720.27	13,377.51	2,053.00	5,828.14	12,620.45	0	0	0	0	45,599.37
【森林法第10条の2第1項による開発行為の許可について】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	6,923.40	6,923.40
【土地売買等の届出】										
件数	12	3	1	2	2	3	0	0	0	23
面積 (㎡)	59,746.49	19,001.81	2,640.00	4,102.95	9,031.00	8,551.80	0	0	0	103,074.05
【墓地経営に関する事前審査】										
件数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
面積 (㎡)	1,582.00	0	812.00	0	0	0	0	0	0	2,394.00
【墓地変更許可申請に関する事前協議について】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【炉石法第33条の6に基づく意見の聴取等】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【鉱業権の出願に関する協議】										
件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	0	3,122,300.00	0	0	0	0	0	0	0	3,122,300.00
【公共施設の設定計画等協議】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【市街化調整区域における大規模開発について】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【納骨堂経営許可事前審査願いについて】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【総合計】										
件数	37	21	8	15	25	14	2	0	1	123
件数比	30%	17%	7%	12%	20%	11%	2%	0%	1%	100%
面積 (㎡)	162,478.70	3,201,316.93	8,832.86	184,129.54	52,143.31	50,252.66	12,197.74	0.00	6,923.40	3,678,275.14
面積比	4.42%	87.03%	0.24%	5.00%	1.42%	1.37%	0.33%	0.00%	0.19%	100%



■ A 大分市街地区	■ B 穂田地区	■ C 大南地区
■ D 明野地区	■ E 鶴崎地区	■ F 大在地区
■ G 坂ノ市区	■ H 佐賀間地区	■ I 野津原地区

第2表 地区別事前審査割合 (件数比)



■ A 大分市街地区	■ B 穂田地区	■ C 大南地区
■ D 明野地区	■ E 鶴崎地区	■ F 大在地区
■ G 坂ノ市区	■ H 佐賀間地区	■ I 野津原地区

第3表 地区別事前審査割合 (面積比)

2 発掘調査事業

(旧石器・縄文時代)

平成18年度における旧石器時代のまとまった遺構・遺物の検出事例はない。縄文時代に関しては、市西部に位置する国分遺跡において縄文早期に比定される押型文土器や鉾島産黒曜石等が検出されている。また、横尾遺跡では、昨年度に引き続き遺跡の範囲確認調査を実施した。第120次調査は、横尾貝塚周辺における縄文時代早期後半頃の入り江の南限の確認を目的として実施した。調査の結果、アカホヤ火山灰の二次堆積層を確認し、その上位に12世紀後半頃に埋没した自然流路跡の存在を明らかにした。第122次調査は、横尾貝塚の貝層の分布範囲の確認を目的に調査を実施したものであり、過去の調査トレンチの位置を確認できたことにより、貝層の分布範囲の把握と既往の調査成果との整合がより具体的に可能となった。市東部の丹生川・坂ノ市条里跡第10地点では、縄文時代晩期末から弥生時代早期に比定される埋壺を確認した。

(弥生時代)

本年度の弥生時代に比定される遺構・遺物の確認例は少なく、丹生川・坂ノ市条里跡第10地点において弥生時代の竪穴住居跡1基を確認したのみである。

(古墳時代)

大道遺跡群第14次調査地点において溝状遺構を検出し、溝内部から古墳時代初頭から前半頃に比定される大量の土器資料を確認した。また、大道遺跡群第20次においても検出面での幅約2.5～3.5mの溝状遺構を検出した。溝埋土上半部を中心に布留式中段階に相当する大量の土器を内包しており、大分平野部の当該期の土器様相を示す良好な資料を提供した。さらに、ほぼ同時期の紫掘りの井戸跡も検出しており、内部に30個体以上の完存土器の出土が認められた。木上地区の大規模宅地造成に伴う調査では、開発地内にある高来山横穴墓群、漆間横穴墓群、虎御前古墳、六部塚古墳等の調査を実施した。なかでも高来山横穴墓群（1号墓）、漆間横穴墓群（3号墓）は、閉塞石が遺存し、内部には赤色顔料が塗布されていた。前者の床面には砂利が敷かれており、奥壁中央部分には突起状の施設が作出されている。また、後者は未盗掘であり、玄室内からは人骨片の他、銅鏡、鉄刀、玉（ガラス、石）が出土した。いずれの横穴墓も5世紀末～6世紀初頭に比定される。虎御前古墳は主体部、積土等は確認されていない。六部塚古墳は、明確な墳丘は確認されなかったものの、主体部と考えられる箱式石棺を検出している。所産時期については不明である。

(古 代)

遺跡の範囲確認を目的に継続実施している城原・里遺跡の調査では、城原・里遺跡第3～4次調査地（中安遺跡）の隣接地の調査を実施した（第10次）。調査地点は海部郡街政庁と想定されている建物跡の西側部にあたり、検出した南北方向の柱穴列の存在から政庁に関連する建物群の範囲が東西約55mのロの字状配置となる可能性を示した。大道遺跡群第14次調査では、8世紀中頃から後半頃に比定される木組の枠をもつ井戸跡を確認した。また、丹生川・坂ノ市条里跡第10地点では平安時代末の土坑墓を確認し、土坑内部からは潮州鏡、銅製鈴などが出土している。また、中世大友城下町跡第74次調査において大規模な土取り痕を確認しており、調査区内からの出土遺物には、白磁碗Ⅰ類、越州窯系青磁碗Ⅱ類の出土が認められた。

(中 世)

中世前半期と戦国時代末期に比定される遺跡の調査がなされている。丹生川・坂ノ市条里跡第9地点では、12世紀中頃から13世紀の屋敷跡を確認し、丹生荘の荘官クラスの屋敷跡等の可能性が指摘される。出土遺物には、

中国産白磁四耳甕や中国産黄釉甕等の他、渥美焼、常滑焼等の出土も認められる。また、玉沢地区条里跡では、複数地点で水田跡の調査を実施した。戦国時代末期の調査事例には、中世大友城下町跡と横尾遺跡がある。大友氏館跡では、館の中心部分で確認されている大型建物関連遺構の展開状況の把握を目的に第17次調査を実施した。また、大友氏館跡第19次調査では改めて遺構内堆積土層を検討することにより従来「土塁」跡としていた遺構についての見解を修正した。くわえて、これまで大規模「整地」としていたものが長楕円形に掘削した窪地の堆積土であることが確認された点も新たな成果と言える。府内町跡第63次調査は大友氏館跡の推定南側外郭線上において実施した調査である。約4.5mの間隔をもって並行する2本の溝状遺構とこの溝間に積土することで構築された施設の存在を確認した。これらは館の北、西で確認されている外郭施設と同様の構造を有しており、16世紀末における館の外郭施設の一部であろうと考えられる。旧万寿寺地区では2地点の調査を実施した（第2・3次）。第2次調査では旧万寿寺の北側を区切る堀の一部を検出した他、道路跡を確認した。第3次調査地は旧万寿寺境内北端部にあたり、16世紀後半段階の掘立柱建物跡1棟を確認した。中世大友府内町跡では、第4南北街路沿の調査を実施し、15～16世紀に比定される柱穴、溝状遺構、土坑などを検出している。第70次調査は来迎寺西側に位置する下水道工事に伴う調査である。18世紀の後半頃に比定される廃棄土坑が存在し、中世の遺構は確認することはできなかった。第73次調査では旧万寿寺跡の西側堀を検出した。堀内には複数の改修が認められ、溝内からは国産陶器、京都系土師器、中国産陶磁器、瓦、石塔類などが出土した。堀の最下層には泥炭質粘土層の堆積がみられ、漆器碗や下駄等の木製品、獣骨や貝類等が出土している。第74次調査地点は第4南北街路沿いの西側に配置された諸寺院のさらに北側に相当する。戦国～近世初頭の溝や建物、井戸跡などを確認した。なかでも溝や井戸跡、土坑に関しては、戦国時代末期から近世初頭に比定されるものであり、中世大友府内町跡から近世城下町に移転する過渡期の生活痕跡として注目される。新城下町建設に際しての一時的な人々の居住地等の可能性が考えられる。横尾遺跡では、16世紀後半～末に比定され京都系土師器皿を伴出する墓を検出している（第113次調査）。また、第117次調査では中世の方形館に伴う溝状遺構の一部を検出した。出土物には朝鮮王朝産白磁碗等がある。

（近 世）

近世の遺構・遺物を主体的に確認した調査地点には、府内城・城下町跡第17次調査、横尾遺跡第114次・115次・117次・119次調査がある。府内城・城下町跡第17次調査地点は府内城の三ノ丸に位置する。13世紀の遺物包含層の他、18世紀代の井戸跡や廃棄土坑、火災処理土坑などを検出し、くわえて屋敷の地割を示す可能性のある遺構を確認した。横尾遺跡の一連の調査では流路跡、溝状遺構、近世墓などを検出している。（坪根伸也）



第2図 調査遺跡位置図

第4表 大分市平成18年度発掘調査地一覧

調査地点	通 称 名	所 在 地	調査担当省	調査地	調査期間	種 別	事業内容
1	大友氏館跡第17次調査	大分市顕徳町	中西・吉田・若林	750	17.5.11～19.3.29	国庫補助事業	市内道路
1	大友氏館跡第19次調査	大分市顕徳町	中西・仲矢・高島	419	18.6.28～19.3.29	国庫補助事業	市内道路
2	中世大友城下町跡第63次調査	大分市顕徳町	古川	90	18.6.6～19.2.23	国庫補助事業	市内道路
2	旧万寿寺地区第2次調査	大分市大字大分	古川	270	18.10.19～19.3.23	国庫補助事業	市内道路
2	旧万寿寺地区第3次調査	大分市大字大分	古川	365	18.12.11～19.3.23	国庫補助事業	市内道路
2	中世大友城下町跡第25・10次調査	大分市大分北町	古川・宮田・若林	125	18.8.29～19.3.26	公共事業	街路建設
2	中世大友城下町跡第26・3次調査	大分市顕徳町	古川・羽田野・梶野	350	18.5.1～19.3.26	公共事業	街路建設
2	中世大友城下町跡第27・8次調査	大分市顕徳町	古川・羽田野	220	18.4.17～19.3.26	公共事業	街路建設
2	中世大友城下町跡第27・9次調査	大分市顕徳町	神田・若林	81	18.9.22～19.3.26	公共事業	街路建設
2	中世大友城下町跡第70次調査	大分市錦町	池邊・羽田野	30	18.5.18～19.3.1	公共事業	下水道工事
2	中世大友城下町跡第73次調査	大分市大字大分	池邊・羽田野・山下	329	18.10.15～19.2.7	公共事業	下水道工事
2	中世大友城下町跡第74次調査	大分市金池町	長	395	18.10.2～11.30	民間開発	マンション建設
3	野内城・城下町跡第17次調査(三ノ丸)	大分市荷揚町	長・山下	482	18.5.11～19.3.29	公共事業	立体駐車場建設
4	大道道跡群第14次調査	大分市金池南	永松・古田	317	18.4.25～6.15	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第15次調査	大分市金池町	永松・古田	603	18.6.19～8.28	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第16次調査	大分市金池町	永松	683	18.11.6～19.3.28	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第17次調査	大分市金池南	永松	297	18.7.31～19.3.28	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第18次調査	大分市坂ヶ丘	永松	57	18.7.31～19.3.28	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第19次調査	大分市金池南	永松	306	18.9.19～19.3.28	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第20次調査	大分市東大道	萩	1389	18.12.9～19.3.28	公共事業	区画整理
4	大道道跡群第21次調査	大分市金池	永松	1628	18.12.25～19.3.28	公共事業	区画整理
5	玉沢地区集里跡第19次調査	大分市大字市	佐藤・奥村・山下	130	18.4.14～5.31	民間開発	区画整理
5	玉沢地区集里跡第20次調査	大分市大字市	佐藤・奥村	225	18.7.24～8.30	公共事業	下水道工事
5	玉沢地区集里跡第21次調査	大分市大字市	萩・佐藤	137.2	18.8.8～9.4	民間開発	大規模施設建設
7	横尾道跡第113次調査	大分市大字横尾	河野	1235	18.4.10～18.5.17	公共事業	区画整理
7	横尾道跡第114次調査	大分市大字横尾	五十川・佐藤	1571	18.4.25～18.7.28	公共事業	区画整理
7	横尾道跡第115次調査	大分市大字横尾	五十川	334	18.6.21～18.7.28	公共事業	区画整理
7	横尾道跡第117次調査	大分市大字横尾	佐藤	2000	18.12.15～19.2.16	公共事業	区画整理
7	横尾道跡第118次調査	大分市大字横尾	佐藤	530	18.9.19～18.10.25	公共事業	区画整理
7	横尾道跡第120・2次調査	大分市大字横尾	五十川	410	18.7.28～18.8.24	公共事業	区画整理
7	横尾道跡第119次調査	大分市大字横尾	堀地・五十川	16	18.10.4～11.28	国庫補助事業	市内道路
7	横尾道跡第120次調査	大分市大字横尾	堀地・五十川	81	18.10.18～12.13	国庫補助事業	市内道路
7	横尾道跡第122次調査	大分市大字横尾	堀地・五十川	28	18.11.27～12.28	国庫補助事業	市内道路
8	丹生川坂・市集里跡(第9・10地点)	大分市大字丹川	五十川・山本	3000	18.4.24～9.29	公共事業	駐車場整備
8	丹生川坂・市集里跡(第9・10地点)	大分市大字丹川	五十川・山本	3000	18.12.12～19.2.5	公共事業	駐車場整備
8	丹生川跡群(試掘・確認調査)	大分市大字丹川	五十川・山本	3000	19.1.22～2.5	公共事業	駐車場整備
10	城原・里道跡第10次調査	大分市大字城原	佐藤	136.5	18.11.15～19.3.30	国庫補助事業	市内道路
11	園分道跡	大分市大字園分	堀地・水町	1014	18.5.22～6.23	民間開発	社会福祉施設建設
12	高来山横穴墓群・高来山第2横穴墓群・高来山第3横穴墓群・漆間横穴墓群・小藤道跡・六郎塚古墳・虎崎前古墳	大分市大字木上	堀地・佐藤・宮田・羽田野・山下	380	18.7.25～8.25	民間開発	宅地造成
13	上松岡道跡	大分市大字松岡	萩	444	18.5.13～9.4	公共事業	学校建設

第5表 大分市平成18年度確認調査地一覧

番号	種別	道 跡 名	住 所	調査面積 (㎡)	調査期間	開発原因
1	確認(民間)	二目川道跡	大分市大字横尾		18.04.11	マンション建設
2	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市金池町	35	18.04.18	マンション建設
3	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字上宗	20.6	18.05.11	給油所建設
4	確認(民間)	上野道跡群	大分市上野丘西	7.0	18.05.24	本堂の立替
5	確認(民間)	毛井道跡	大分市大字毛井	50	18.05.30	給油所建設
6	確認(民間)	古国府道跡群	大分市大字羽屋	8.4	18.06.05	個人住宅
7	確認(公共)	鷲ヶ城跡	大分市大字野津原	6.0	18.06.01	配水池築造
8	確認(公共)	浜道跡	大分市汐見	19.6	18.04.04~05.23	下水道工事
9	確認(民間)	古国府道跡群	大分市大字羽屋		18.07.27	個人住宅
10	確認(民間)	宮苑井ノ口道跡	大分市大字宮苑		18.08.01~08.01	集合住宅
11	確認(民間)	上野道跡群	大分市上野丘	立会	18.08.01	集合住宅
12	確認(公共)	一本道跡	大分市大字一本	14	18.04.06~08.16	下水道工事
13	確認(民間)	二目川道跡	大分市大字横尾	25.2	18.09.05	給油所建設
14	確認(民間)	津守道跡	大分市大字津守	2.3	18.09.20	診療所建設
15	確認(民間)	下郡道跡群	大分市下郡南	5.6	18.08.09	事務所建設
16	確認(民間)	上野道跡群	大分市上野丘	立会	18.10.02~10.04	集合住宅
17	確認(公共)	桑津留道跡	大分市大字萩尾	0.6	18.10.20	道路改良工事
18	確認(民間)	中戸次道跡	大分市大字中戸次		18.11.15	店舗建設
19	確認(民間)	下郡道跡群	大分市大字羽田	47	18.10.27	集合住宅
20	確認(民間)	田崎道跡	大分市庄の原	立会	18.11.17	植栽
21	確認(民間)	津守道跡	大分市大字津守	33	18.11.27	浄化槽建設
22	確認(民間)	二目川道跡	大分市大字横尾	7.0	18.08.12	診療所建設
23	確認(公共)	府内城・城下町	大分市青揚町		18.12.14	アートプラザ改修工事
24	確認(民間)	丹生川・坂の市条里跡	大分市大字丹川		18.12.19	個人住宅
25	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字市		19.01.12	学校建設
26	確認(民間)	古国府道跡群	大分市大字古国府	立会	19.01.12	下水道工事
27	確認(民間)	古国府道跡群	大分市大字羽屋	立会	19.01.12	下水道工事
28	確認(民間)	下郡道跡群	大分市下郡南		19.01.10	浄化槽建設
29	確認(民間)	古国府道跡群	大分市大字羽屋	6.0	19.02.13	宅地造成
30	確認(民間)	碓山山頂道跡	大分市大字津守		19.02.09	道路拡張
31	確認(民間)	上野道跡群	大分市大字永興	4	19.02.14	携帯基地局
32	確認(民間)	下郡道跡群	大分市下郡中央	立会	19.03.05	浄化槽建設
33	確認(民間)	横尾道跡	大分市大字横尾	68	19.02.01	NTT基地局
34	確認(民間)	米竹道跡	大分市大字小池原		19.03.14	集合住宅
35	確認(民間)	馬場・神崎条里跡	大分市本神崎本	17	19.03.01	共同住宅
36	確認(民間)	宮苑井ノ口道跡	大分市賀来西土地区 画整理事業地内保留地A-9街区・符号1	55	19.03.07	共同住宅
37	確認(民間)	勢家道跡	大分市勢家町	15	19.03.27	集合住宅

3 教育普及活動

刊行物

大分市文化財だより 2006年度号の発行

10月に行われる中世大友再発見フォーラム開催に合わせ、一特集中世大友再発見フォーラムⅡ「府内のまち 宗廟の栄華」－を発行、市内全戸に配布した。

大分市埋蔵文化財調査年報 vol.17 2005年度 の刊行

大分市埋蔵文化財年報vol.17 2005年度号は、大友氏館跡、中世大友府内町跡、横尾遺跡を中心に、旧万寿寺地区、城原・里道跡、大道遺跡群、玉沢地区条里跡、丹生川坂の市条里跡、丹生遺跡群、宮苑井ノ口遺跡の発掘調査成果を記載、各関係機関へ配布した。

現地説明会及び現地見学

平成18年度の現地説明会及び現地見学は以下のとおり行われた。

9月30日に行われた丹川地区・発掘調査内容の地元現地説明会には、80人が参加した。10月8日に行われた大友氏遺跡現地説明会は、中世大友再発見フォーラムⅡで行われ450人が参加した。

11月5日に行われた中世大友城下町跡現地説明会は、大分県教育委員会との共催で行われ120人が参加した。

講演会

講演会については、以下のとおり行われた。

5月24日～9月27日（全9回）の「下郡の歴史をさしもう」は、下郡公民館に於いて各回40名が参加した。

9月2日及び3月3日の「江戸時代の日岡」「日岡小学校の歴史」は、日岡公民館に於いて日岡クラブの22名、18名が参加した。

10月12日の「大南公民館歴史講座(大分市の文化財)」は、大南公民館に於いて42名が参加した。

10月27日の「大友氏の館跡発掘状況及び大友氏の盛衰について」は、南大分公民館に於いて南大分高齢者大学の40名が参加した。

12月9日の「親子で学ぶふるさと探訪講座」は、大分大学生涯学習センターに於いて45名が参加した。

出土遺物及び調査資料貸出

平成18年度の貸出は、以下の2件であった。

番号	内 容	期 間	資 料 名	目 的	申 請 者
1	写真の借用 及び掲載		推定大友館跡東南地区空中写真元町石仏伝薬師如来像 大友氏館・中世府内町出土品 在地系土師器・京都系土師器・玉砂利・備前焼掛花入、平鉢、建水、信楽焼壺、水指・瀬戸美濃産天目茶碗・中国産陶磁器・タイ産四耳壺、鉄絵小壺、ベトナム産長胴瓶、白磁印花文碗	「歴史考古学大辞典」への掲載のため	御吉川弘文館
2	資料の貸出	11月2日		九州中学校教育研究会 社会科部会大分大会における提案授業及び研究発表のため	大分県中学校教育研究会 社会科部会 会長 堀 貞一

体験発掘

体験発掘については、「総合学習の時間」の一環として行われた横瀬西小学校、吉野小学校、王子中学校、大分南中学校、賀来中学校、上野ヶ丘中学校の計6回、インターンシップとして行われた大分商業高校の1回、観光課が行っている修学旅行受入で行われた2回、歴史資料館のふれあい歴史講座で行われた1回の計10回行われた。

研修報告

独立行政法人奈良文化財研究所による埋蔵文化財発掘技術者研修「中近世城郭調査過程」に職員1名を派遣した。

新指定文化財

国指定の登録文化財として新たに以下の8件を指定した。

帆足家本家住宅「富春館」主屋・宝蔵・質蔵・洋館・離れ・表門・中門・塀

海部古墳資料館

海部古墳資料館の年間を通しての入館者数は、以下のとおりであった。

団体	5,453人
個人	8,068人
合計	10,804人であった。

平成18年度の特別展は、本年度で3回目となる大分市で新たに発掘された遺跡・遺物を紹介する「タイムトラベラー2006 みて・きいて・かんじる大分のれきし」を開催した。内容は以下のとおりである。

名 称	「タイムトラベラー2006 みて・きいて・かんじる大分のれきし」
開催期間	10月20日～11月19日
入場者数	3,014人

中世大友再発見フォーラムⅡ

大友館跡の国史跡を記念して平成13年に行われたフォーラムから5年の節目となる平成18年10月8日、コンパルホールをメイン会場に「中世大友再発見フォーラムⅡ」を開催した。開催内容は以下のとおりである。

午前の部

内 容	大友氏遺跡現地説明会
場 所	大分市顕徳町の大友館跡
参加人数	450人

午後の部

内 容	俳優の苅谷俊介氏による特別講演「織田信長と大友宗麟」 「府内のまち 宗麟の栄華」をテーマとしたパネルディスカッション コーディネーター豊田寛三氏、パネラー苅谷俊介氏、河原純之氏、伊藤正義氏、 三浦祥子氏、鹿毛敏夫氏
場 所	コンパルホール文化ホール
参加人数	500人

大友氏館跡第17次調査

調査面積 750㎡ 調査期間 05.05.11～07.03.29
地域 A 調査担当 中西武尚・古田陽・若秋普満

第17次調査区は、以前の調査において確認されている建物関連遺構の展開状況と範囲把握を目的として確認調査を実施した。調査地は、推定大友氏館跡のほぼ中心に位置し、主殿部分に想定されている地区である。

調査の結果、16世紀前葉～中葉に比定される掘り込み整地遺構と、その上面に構築された建物関連遺構の現状での範囲が確認でき、さらに南側への広がりと考えられる所見が得られた。

建物関連遺構は、礎石の根締め石、礎石の根締め跡、礎石の抜き取り跡と考えられるものなどいくつかの種類が確認され、すべてが同一時期のものとは判断されないが、収集したデータと以後の周辺調査の成果をもとに建物構造の解明を行っていくことが今後の大きな課題である。

掘り込み整地遺構の下位では、15世紀以降の整地層と考えられる一連の層が確認され、周辺の調査成果とあわせると、すでに15世紀段階で、今次調査区をはじめとし、この南側の地区では、整地による高上げがあったと考えられる。現状でこの15世紀段階の整地層の範囲は限られており、この範囲の空間利用状況は、大友館跡の形成過程を考える上で重要な事項と考えられる。(中西武尚)



第3図 調査地点位置図

大友氏館跡第19次調査

調査面積 419㎡ 調査期間 06.06.28～07.03.29
地域 A 調査担当 中西武尚・仲矢咲紀・高畠豊

第19次調査地点は大友館の西側の端にあたり、平成10年度（第2次）と11年度（第5次）に発掘調査が行われた地点に隣接しており、第2次・第5次調査区の一部の再発掘も含めて確認調査を行った。

調査の結果、この地点では、第2次調査区で指摘された大規模な整地層はもとより、館西側部分を広く覆うような整地層は存在しないことを確認した。また、これまで「土塁」跡とされてきた遺構についても、幅6.2m～7.2m、検出面からの最大深約1.4m、GN-4°-Eを指向する大規模な溝状遺構（館19SX100）であることを確認し、従来の見解を修正した。一方、大溝が埋積した後に館内部の掘り下げを行っているとした第2次調査の所見については改めて確認でき、南北約26m、東西約17mの長楕円形の凹地が作り出されているものと推定された。

今回は、新たに墓の可能性もある16世紀中葉の土器埋納遺構（館19SX040）も検出されたことは注目されるが、先述のように、本地点の基本的な遺構解釈は従来のものから大きく変更される結果となっており、今後は20次にわたる従来の調査結果の再検討を行った上で、館内の遺構変遷をまとめ直す必要があろう。(高畠 豊)



第4図 大友氏館跡第19次調査区全景（東より）



第5図 館19SX040遺物出土状況（南より）

中世大友城下町跡第63次調査

調査面積 90㎡ 調査期間 06.06.06～07.02.23
地域 A 調査担当 古川 匠

本調査では、大友氏館跡の南外郭線の確定ならびに館内部・外部の遺構の比較を目的として、確認調査を実施した。推定南外郭線上にあたる位置で、東西方向の溝状遺構（SX080）を検出した。16世紀後半段階に機能した溝と考えられる。埋土中位には北方向からのまとまった流入土が明確に確認され、砂質土、粘質土の小単位毎のブロック状堆積が観察できた。現況ではSX080の北側は攪乱によって完全に破壊されているが、この流入土の存在から、溝として機能していた時に、北に隣接する積土構造物が存在した事が推定される。SX080の約4.5m北の地点でやや小規模な東西方向の溝状遺構（SX001）を検出した。SX001の時期も16世紀後半段階に比定される。2条の溝の間に於ける積土構造物の存在は、館北外郭における区画施設と同一の状況である。また、2本の溝状遺構の北には約7mにわたって16世紀後半の遺構が存在せず、空閑地であった可能性がある。また、SX080以南に於いても16世紀後半に比定される他の遺構は廃棄土坑のみで、空閑地だった可能性がある。今回の調査によって初めて館南外郭線における区画施設が確認された。今後の周辺部の調査によってさらに南外郭線とその付近における状況が確認されるものと考えられる。（古川 匠）

旧万寿寺地区第2・3次調査

調査面積 270㎡(2次)・365㎡(3次) 調査期間 06.10.19～07.03.23
地域 A 調査担当 古川 匠

第2次調査区は旧万寿寺の北側に隣接し、府内古絵図に描かれる「堀之口町」に比定される地点にあたる。遺構の年代は3段階に区分できる。最上面では小土坑・柱穴群、道路遺構、万寿寺北辺を区画する堀が検出された。当該期には町屋域だった可能性がある。16世紀後半段階に比定される。同一面で15世紀前葉に比定される遺構群が検出された。土師器廃棄土坑が調査区中央部から東部にかけて検出される。そして、さらに下層に14世紀代の遺構を確認した。瓦、礫が廃棄された土坑や、調査区中央部では楕円形の盛土状遺構を検出した。この円形の遺構は周溝を持ち、墳墓の可能性がある。寺院関連の空間であった可能性が指摘できよう。



第6図 調査地点位置図

第3次調査区は旧万寿寺推定境内北東部に設定した調査区である。

遺構密度は低く、遺物出土量も少なく、ほぼ全て土師器片であった。調査区の西端で16世紀後半以降の築造が想定される大型の掘立柱建物が出た。境内北東部に存在した大型建物と考えられる。調査区外に柱穴の存在が想定される為、詳細な構造及び規模は確定できなかったが、今後の近接地点の調査が期待される。（古川 匠）



第7図 中世大友府内町跡第63次調査区（東より）



第8図 旧万寿寺地区第2次調査区内形周溝遺構（北東より）

中世大友城下町跡第25-10次調査

調査面積 125㎡ 調査期間 06.08.29～07.03.26
地域 A 調査担当 古川匠・宮田剛・若牧善満

本調査は、都市計画道路六坊新中島線の拡幅事業に伴って実施した。現在の大分市六坊北町の、六坊新中島線の東側に位置する。中世大友府内町に於いては、御蔵場の西側に隣接する、「上町」付近に推定される。近世の水田層を掘削すると、調査区を貫通する小規模な南北方向溝が中央付近で検出された。溝の東側では道路あるいは築地の構築層と思われる堅固な砂礫層が検出され、直下では波板状圧痕の存在が確認されたが、調査面積が限定されるため、この層の範囲を平面的に確認することは不可能であった。本調査区の北側で大分県教育委員会が発掘調査を実施した、中世大友府内町跡第5次調査において御蔵場の北辺・西辺に構築された植土遺構ならびに隣接する溝が検出されているが、本調査区の砂礫層は築地跡に、南北方向の溝は築地西側溝の延長上に矛盾なく位置することから、同一遺構と考えられる。砂礫層下位遺構出土の遺物年代から、御蔵場の築地及び側溝は16世紀前半～末頃の範囲内での機能が想定され、県教委調査成果とも符合する。詳細については、平成19年度刊行報告書に掲載する予定である。(古川 匠)



第9図 調査地点位置図

中世大友城下町跡第26-3次調査

調査面積 350㎡ 調査期間 06.05.01～07.03.26
地域 A 調査担当 古川匠・羽田野裕之・姫野久恵

本調査は、都市計画道路六坊新中島線の拡幅事業に伴って実施した。現在の大分市顕徳町二丁目の、六坊新中島線西側に位置する。中世大友府内町に於いては、第四南北街路西側の「中町」付近に推定される。他の調査区と同様に、近世の水田層直下より中世城下町の遺構面が検出された。調査面積が狭小であるため推測の域を出ないが、小規模柱穴、土坑が多く、町屋域であった可能性が高い。遺存状況の良好な地点では、3面にわたって中世の遺構面が検出された。第一面の年代は、出土遺物から、凡そ16世紀代の遺構面と考えられる。第二面の年代は15世紀後半頃に比定される在地系土師器を柱穴部に埋納する柱穴が検出され、他の遺構の出土遺物の年代もその時期に収まる。第三面は遺物がほとんど出土せず、年代の決定には至っていない。各々の遺構面は下位の遺構面上に包含層を介して検出されており、画期毎に整地がなされているようである。また、調査区の東端では、南北方向に、ほぼ一直線上に、小規模な溝や長土坑が連続して検出された。位置的には第四南北街路の西に接する地点にあたることから、これらの遺構が道路側溝であった可能性がある。詳細については、平成19年度刊行報告書に掲載する予定である。(古川 匠)



第10図 町25-10次調査区東壁土層



第11図 町26-3次調査区第2面完掘状況(南より)

中世大友城下町跡第27- 8 次調査

調査面積 220㎡ 調査期間 06.04.17～07.03.26
地域 A 調査担当 古川匠・羽田野裕之

本調査は、都市計画道路六坊新中島線の拡幅事業に伴って実施した。現在の大分市顕徳町三丁目の、六坊新中島線の東側に位置する。中世大友府内町に於いては、御西町付近に推定される。既往の調査では現道の東側で第四南北街路と考えられる道路跡が発見されているが、本調査区でも、道路構築層が調査区全面にわたって確認された。道路構築層は、大別して2～3層が確認されたが、各層の構築時期の差については、調査区が狭小であり、出土遺物も僅少であることから詳細は不明である。ただし、道路層には薄手の京都系土師器皿が包含されていたことから、16世紀代に道路の構築がなされた事は確実である。また、道路層中には一定量の瓦及び石製品が出土したが、これらの遺物の比率がかなり高く、道路の強化を目的として故意に構築層に混ぜた可能性がある。道路下位より、南北方向の溝や小規模土坑などの遺構が散在的に検出された。下位遺構の出土遺物の年代より、道路構築は15世紀後半以降と想定される。本調査の詳細については、平成19年度刊行の報告書に掲載する予定である。(古川 匠)



第12図 調査地点位置図

中世大友城下町跡第27- 9 次調査

調査面積 81㎡ 調査期間 06.09.22～06.03.26
地域 A 調査担当 稗田智美・若秋善満

中世大友城下町跡27-9次調査は、都市計画道路六坊・新中島線の改良工事に伴い、現道路に隣接するなどの制約から便宜的にA・B・C・E区の4地点に分けて調査を実施した。調査地点は、推定大友氏館跡の西側に位置する中町に相当する。調査区周辺においては、中町・御北町・妙厳寺などの町屋や寺地が展開していたと推定される。既往の調査として、15世紀～16世紀の所産とされる道路状遺構・南北方向に延びる柱穴・溝状遺構などが検出された中世大友城下町跡27-7次調査区が北側に近接する。各調査区において、近世以降の水田層直下より、近世の道路状遺構、中世の道路状遺構、それらを掘り込む柱穴など、中世の道路状遺構の下面からは、南北方向に延びる溝状遺構・柱穴・土坑などが検出された。各調査区は狭小であったため、遺構の全形状の検出ができず、詳細が不明な遺構も多いが、A区からは中世の道路状遺構に伴う東側の側溝と考えられる溝状遺構が、又、E区からは中世の道路状遺構下位に何らかの区画を意図すると思われる溝状遺構及び土坑が検出され、14世紀末～15世紀前半に比定される土師器杯・小皿等の良好な資料が出土している。(稗田智美・若秋善満)



第13図 中世大友城下町跡27-9A次調査完掘状況(北より)



第14図 27-9E SD078完掘状況

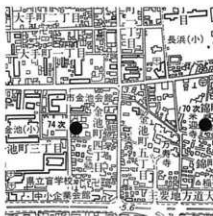
中世大友城下町跡第70次調査

調査面積 30㎡ 調査期間 06.05.18～07.03.01
地域 A 調査担当 池邊千太郎・羽田野達郎

調査地は、大分市の米連寺の東側に隣接し、下水道管埋設工事ともなう発掘調査として行われた。

調査は、下水道建設課との工事工程の調整により3地点に分けて行った。調査の結果、A地点は、表土から80cm下の灰褐色土層上面で近世の廃棄土坑を確認した。廃棄土坑からは、瓦、陶磁器等が出土している。B地点は、表土から73cm下の灰褐色土層上面で近世の廃棄土坑を確認している。C地点は、表土から75cm下の灰褐色土層上面で近世の廃棄土坑を確認しており、3地点で確認されたそれぞれの廃棄土坑からは、瓦、陶磁器等が共通して出土している。遺構の時期としては、18世紀の後半と考えられる。また、3地点ともに確認された廃棄土坑は、下水道に伴う掘削範囲を超えて延びているため規模は不明である。その上層では、戦災処理の土層が確認されている。

今回の調査では、中世大友府内町跡の米連寺東側に位置するため、戦国期の遺構が展開しているのではないかと考えられたが確認されなかった。(池邊千太郎)



第15図 調査地点位置図

中世大友城下町跡第73次調査

調査面積 329㎡ 調査期間 06.10.15～07.02.07
地域 A 調査担当 池邊千太郎・羽田野達郎・山下朋紀

調査地は、大分市大字大分にあたり、下水道の雨水幹線施設工事に伴う文化財調査として実施された。場所は『府内復原想定図』『府内古図』によるところの旧萬寿寺西側に相当し、昨年度に当市が調査を実施した中世大友府内町跡第60次調査区の北側に隣接している。

調査は2地点で、うちA区は、国道10号線に沿って南北長70m、東西幅4mの範囲であった。中世大友府内町跡第51・53・60次調査区で検出された旧萬寿寺北西角から西の堀の延長部が確認され、堀の東側からは万寿寺境内の一部が確認されている。掘埋土からは国産陶磁器・京都系土師器のほか、輸入陶磁器や石製品・金属製品などが多数出土した。また、堀の最下層には泥炭質土層が堆積し、陶磁器のほかに漆器碗や下駄などの木製品や獣骨・貝類なども出土している。今次調査及び第53・60次調査の成果から、16世紀後半段階に、堀の成立から埋立てが短期間でなされていたことが示唆される。

またB区は調査面積36㎡で、平成16年度に大分県教育庁埋蔵文化財センターが調査した中世大友府内町跡第43次調査区の南に隣接する。検出した遺構は、万寿寺境内にあたる所に建物跡と思われる多数の柱穴群である。今回確認された堀が第53・60次調査と同様の層位を成していることから、調査区を含む万寿寺西側の堀が第2南北街路の拡張に伴って行われた土木事業により埋め立てられたことが考えられる。(山下朋紀)



第16図 調査区全景

中世大友城下町跡第74次調査

調査面積 395㎡
地域 A

調査期間 06.10.02～06.11.30
調査担当 長 直信

当調査区は中世大友府内町跡の北西端に位置し、「戦国時代の府内町復原想定図」によれば、穴打町から下町の裏手、大雄院・大智寺などの第4南北街路沿いの諸寺の北側に相当する場所である。遺構の残りは非常に良好であり、戦国～近世初頭の溝や掘立柱建物、石組み井戸等の生活遺構や、古代～中世頃の大規模な土取り跡を検出した。この土取り遺構の存在からは、付近での面的な整地、築地や基壇の築造などの土木事業が想起され、興味深い遺構といえる。また、石組み井戸については、16世紀末～17世紀初頭の非常に短期間に造られ廃棄されており、府内町の復興から新たな近世城下町形成の時期の生活遺構として注目される。(長 直信)



第17図 町74次全景写真(合成)

府内城・城下町跡第17次調査(三之丸)

調査面積 482㎡
地域 A

調査期間 06.05.11～07.03.29
調査担当 長 直信・山下 桂

調査地は、旧海岸に程近い標高2mに立地する府内城・城下町跡の三ノ丸に位置し、近世の絵図から推定された「府内城下の復原図」によると3軒の屋敷地をまたぐ地点にある。調査地は、昭和以降の大きなカクランを受けており、遺構の遺存状態は悪かったが、近世後半期を中心とした3つの整地面と、その下層より、和泉型瓦器等を多量に含む中世の遺物包含層を確認した。近世の主な遺構として、屋敷地の地割りに関する可能性のある東西溝や、区画杭の可能性のある南北方向の柱列が確認された他、19世紀に埋まった大量の遺物を含む大型廃棄土坑、井戸2基、土坑、18世紀前半代の火災処理土坑2基を検出し、近世後半期における三ノ丸武家屋敷地の空間利用を考える上で貴重な成果が得られた。(長 直信)



第18図 調査地点位置図



第19図 府17全景写真

大道遺跡群第14次調査

調査面積 317㎡
地域 A

調査期間 06.04.25～06.06.15
調査担当 永松正大・古田 陽

調査地は大道遺跡群の南端部分にあたり、溝状遺構、井戸跡、土坑を確認した。

井戸跡は約2.0mの円形プランで、長方形に本組がなされた井桁と、薄板を留め具で固定した曲物を遺構内から検出した。出土遺物から8世紀中頃～後半頃に廃絶したものと考えられる。

調査区南西から北東に延びる溝状遺構は、古墳初頭段階の環濠等の性格が考えられる。

土坑は、近世以降の時期が考えられ、近世段階の造成（埋土整地）の痕跡と考えられる。

また、調査区南東に向かい、緩やかな傾斜が見て取れ、自然地形の落ち部分にあたり、遺構も検出できないことから、本調査区は遺跡内の東端部と想定される。（永松正大）



第20図 調査地点位置図

大道遺跡群第15次調査

調査面積 603㎡
地域 A

調査期間 06.06.19～06.08.28
調査担当 永松正大・古田 陽

調査地は大道遺跡群第14次調査の北側にあたり、調査区北側では傾斜が見て取れ、北側に向かうにつれて緩やかな傾斜をしていき、暗黒褐色砂質土の遺物包含層を確認している。遺物包含層下位では、遺構は見られない。主要な検出遺構は溝状遺構、井戸跡、土坑、柱穴を確認した。

井戸跡は9基確認され、出土遺物から遺構の属属年代は古墳初頭に比定できる。

調査区南西から北東に延びる溝状遺構と杭列を伴う溝状遺構があり、後者は、近世以降の水田耕作に関連すると考えられる。また、前者は2条の溝が切り合っており、造り替えと思われるが、出土遺物から時期差は少なく、17世紀前半段階と考えられる。

土坑は長方形プランが多く、出土遺物から18世紀後半以降の時期に比定できる。性格等は不明である。

以上の点から、調査区は狭い一集落形成地内の北端部分と考えられ、古墳初頭以前や以降においても遺構の展開に隔絶があることや大道遺跡群第14次調査の所見から南東端が確認できていることから、大道遺跡群が島状に遺跡の展開をしていたと想定される。（永松正大）



第21図 大道14次調査区全景（西から）



第22図 大道15次井戸跡遺物出土状況

大道遺跡群第16次調査

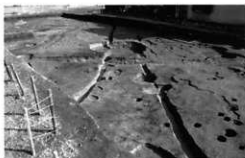
調査面積	683㎡	調査期間	06.11.06～07.03.28
地域 A		調査担当	永松正大

調査地は大道遺跡群第19次調査の南西にあたり、北東部分では隣接している。検出遺構として井戸跡、溝状遺構、土坑、溜井状遺構、柱穴を確認した。

井戸跡は、素掘り、廃絶段階での遺物の廃棄が見られ、最下層部分に古墳初頭段階の甕や壺が出土している。

溝状遺構は、近現代、近世、古代の3時期の溝状遺構が確認できた。特に古代の溝状遺構は、同道跡群第19次調査で確認された2条の溝状遺構を確認した。

土坑から多量の弥生終末～古墳初頭の土器が出土している。その他の土坑は、近現代～近世の廃棄土坑と思われる。(永松正大)



第23図 大道16次溝状遺構完掘状況(南西から)

大道遺跡群第17次調査

調査面積	297㎡	調査期間	06.07.31～07.03.28
地域 A		調査担当	永松正大

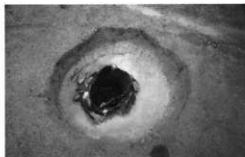
調査地は大道遺跡群第14次調査の南西にあたる。検出遺構として井戸跡、溝状遺構、道路状遺構、土坑を確認した。

井戸跡は、出土土器の帰属年代から、廃絶時期は8世紀末～9世紀前半と考えられる。

溝状遺構は、調査区南西から北東に延び、出土遺物から近世段階の遺構と思われる。

この溝状遺構東側に並列するように道路状遺構が確認されている。近世段階と考えられる。

土坑は、古墳初頭段階の甕や壺が出土している。(永松正大)



第24図 大道17次井戸跡検出状況(東から)

大道遺跡群第18次調査

調査面積	57㎡	調査期間	06.07.31～07.03.28
地域 A		調査担当	永松正大

調査地は大道遺跡群第17次調査の南西にあたり、調査区が狭小であることから検出遺構は遺物包含層を伴う地形上の落ち部分を確認した。遺物包含層は大道遺跡群第15次調査で見られた暗黒褐色砂質土の堆積層で、多量の遺物を包含している。中世土師器環、皿、須恵器環、蓋、土師器環、甕、壺等が出土しており、堆積は南東方向に向けて厚くなり、約0.3m程の堆積が調査区全体の半分に及ぶ。

本調査区は、大道遺跡群第14次調査と同様に遺跡の端部と考えられる地点である。(永松正大)



第25図 大道18次調査区全景(西から)

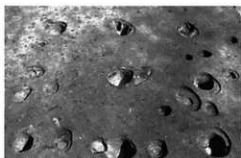
大道遺跡群第19次調査

調査面積 地域 A	306㎡	調査期間 調査担当	06.09.19～07.03.28 永松正大
--------------	------	--------------	---------------------------

調査地は大道遺跡群第15次調査の北西側にあたり、検出遺構は掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑、柱穴が確認できた。

掘立柱建物跡は、2間×2間の総柱建物で、方位は真北に対して西方向に約26度振っている。

溝状遺構は3条検出でき、2条の溝状遺構は並列して調査区北東から南西に延びる。土層観察から2条とも埋土が類似していること、出土遺物にも時期差が見えないことから、並存していたと想起され、道路状遺構の可能性も示唆される。8世紀代に廃絶したと思われる。南東から北西に延びる溝状遺構1条と土坑2基を確認した。溝状遺構を掘り込む土坑は出土遺物から古墳初頭段階に帰属できる。(永松正大)



第26図 大道19次掘立柱建物跡完掘状況(西から)

大道遺跡群第20次調査

調査面積 地域 A	1389㎡	調査期間 調査担当	06.12.09～07.03.28 萩 幸二
--------------	-------	--------------	---------------------------

この調査は、大分駅南口跡地(A地区)及び大分駅南口前駐車場部分(B地区)を対象として実施したもので、A地区では駅建設等に伴う掘削が著しく、時期不明の溝状遺構4条等が検出されたのみであったが、B地区では溝状遺構SD01をはじめとして、古墳時代のものを主体とする溝状遺構27条、土坑17基、井戸2基が検出された。

B地区で検出された溝状遺構SD01は最大幅約3.5mで環濠と推定される。埋土からは、廃棄されたと推定されるコンテナ100箱を超える極めて多量の土器が出土した。これらの土器群は古墳時代前期中葉に位置づけられるが、今後、これまでの調査結果との照合を行って遺跡の位置づけを行っていく必要がある。(高畠 豊)



第27図 大道20次B地区全景(南から)

大道遺跡群第21次調査

調査面積 地域 A	1628㎡	調査期間 調査担当	06.12.25～07.03.28 永松正大
--------------	-------	--------------	---------------------------

調査地は大道遺跡群第5次調査の南側にあたり、弥生～近現代までの複数年代にわたる遺構を確認した。検出遺構は掘立柱建物跡、大溝、溝状遺構、溜井状遺構、土坑、柱穴が確認できた。

掘立柱建物跡は、3間×2間の建物で、出土遺物は僅少で時期比定は出来ない。

溝状遺構は汽車土瓶を大量に包含する大溝と古代の遺物が出土する溝、弥生、古墳の遺物が出土する溝を確認している。

土坑は、弥生中期末～後期前葉の土坑が1基、古墳初頭段階の3基の土坑を確認した。円形の土坑以外に長方形の土坑も確認しており、出土遺物から近世段階の遺構と想定される。(永松正大)

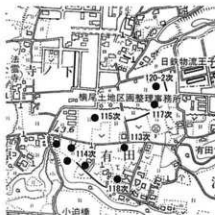


第28図 大道21次土坑遺物出土状況

横尾遺跡第113次調査

調査面積 1235㎡ 調査期間 06.04.10～06.05.17
地域 E 調査担当 河野史郎

調査の結果、溝、墓、小穴、風倒木痕等が検出された。溝については、東西方向に延びる近世の溝跡、南東方向に延びる溝跡が確認された。後者の溝については、詳細時期の特定には至らなかったが、近接調査区調査事例から古代に遡る可能性を有する。墓については、調査区北東部に検出されており、平面円形を呈し、その土層観察から桶に埋葬された墓であることが確認されている。出土遺物には京都系土師器の深手の皿があるが、その出土状況から、桶を埋設する裏込め部及び桶の上部に置かれていた可能性を有している。時期は16世紀後半～末が考えられる。(河野史郎)



第29図 調査地点位置図

横尾遺跡第114次調査

調査面積 1571㎡ 調査期間 06.04.25～06.07.28
地域 E 調査担当 五十川慎也・佐藤孝則

調査地は、大分市大字横尾2047番地1 外21筆に位置する。開発面積は1,729㎡であるが、区画整理の関係上、調査区をA区・B区・C区・D区と分割して調査区を設定した。調査面積はA～C区が約1,250㎡でD区が約321㎡である。調査期間はA・B・C区が平成18年4月25日から平成18年7月28日で、D区が平成18年5月24日から同年6月8日である。後述する遺構の残存状況からも遺跡は大部分を地下げによる削平を受けており、遺構の残存状況は良好ではない。溝状遺構、土坑、ピット、墓が検出された。遺物はコンテナ3箱分が出土した。

墓域については、全部で14基確認された。墓坑には2種類の平面形態が確認され、円形のものと同丸方形のもので、同丸方形については、一段テラスがつき円形に掘り込まれる。底面は全て平らになっており、釘も出土していないため木製の早桶が使用されていたと想定される。横尾地区では、この微高地の縁沿いに、数地点で墓地群が形成されていることがわかっている。溝状遺構については、今最も古いもので18世紀中頃～末、新しいもので19世紀中頃にそれぞれ比定され、何度かの掘り返しを行いながら継続して利用されていたものと考えられる。堆積土から水が流れたり、淀んでいたりという状況は観取できない為、区画溝などとして機能していたと考えられる。(佐藤孝則)



第30図 113次墓跡検出状況

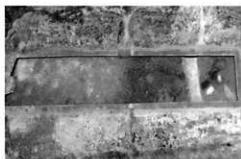


第31図 114次A・B・C区全景

横尾遺跡第115次調査

調査面積	334㎡	調査期間	06.06.21～06.07.28
地域	E	調査担当	五十川慎也

検出された遺構は溝状遺構、地層横転遺構、ビットである。遺物はコンテナ1箱分が出土している。今回の調査区においては何らかの区画を目的とした溝1条を確認できたにとどまった。この他、ビットなどが確認されているが遺物の出土もなく、また、建物が建つような状況もみられなかった。(五十川慎也)



第32図 115次調査区全景

横尾遺跡第117次調査

調査面積	2000㎡	調査期間	06.12.15～07.02.16
地域	E	調査担当	佐藤孝則

調査の結果、用水路と畦畔が調査区西側に大規模に展開していることが確認された。また道路状遺構とそれに伴う波板状凹凸痕が確認された。その他、溝状遺構・土坑・柱穴が確認されている。

道路状遺構の検出状況は、遺構は2条の側溝と多数の波板状凹凸痕で構成されており、方位はGN-26°-Wを呈している。波板状凹凸痕からは9世紀中頃に比定される須恵器が出土しており、当該期の道路である可能性が考えられる。(佐藤孝則)



第33図 117次道路状遺構検出状況

横尾遺跡第118次調査

調査面積	520㎡	調査期間	06.09.19～06.10.25
地域	E	調査担当	佐藤孝則

調査の結果、調査区全体に掘立柱建物跡が展開していることが確認された。また、倉庫跡、建物に伴うと考えられる長土坑、溝状土坑等が検出された。

掘立柱建物跡群については、出土遺物より9世紀代を一時代として最低4時期に渡ると考えられる。中でも注目されるものがSB067の存在である。規模は、2間×3間の柱間を有し、北、南、東側には建物に沿うよう2間の柱が展開する。柱穴は約0.3m～0.6mを測る。そして西側には建物の主軸(GN-28°-E)と沿うように、長土坑が位置する。建物の性格は今後の課題である。主軸の異なる建物跡が同地点で確認されたことにより、当地点が地形的・政治的に重要な場所である可能性が示唆される。(佐藤孝則)



第34図 118次調査区全景

横尾遺跡第120-2次調査

調査面積 410㎡
地域 E

調査期間 06.07.28～06.08.24
調査担当 五十川慎也

本調査では、調査区中央北よりで検出された溝状遺構 (SD002) が注目される。戦国期に比定される方形館を区画する溝の西南のコーナー部分が、今回の調査で検出された。調査成果より方形館の東側の南北の溝の規模が67mあまり、北側と南側については確定出来ないが現在のところ北側の東西の溝が60m、南側の東西の溝が22m確認できる。さらに、今回の調査では館を閉鎖する区画の南西角がとぎれ土橋状に掘り残されており、出入口の可能性が示唆される。(五十川慎也)



第35図 120-2次調査区全景

横尾遺跡第119次調査

調査面積 16㎡
地域 E

調査期間 06.10.04～06.11.28
調査担当 塩地潤一・五十川慎也

谷頭の周辺部に設定した調査区であり、当該地一帯の現況地形において、最も緩やかな斜面にあたる。今回の調査は、縄文時代の遺構・遺物とアカホヤ火山灰の確認を目的として確認調査を実施した。

調査の結果、旧表土と判断される黒褐色土層の直下からは、段丘礫層に相当する礫土層が検出され、当該礫土層上位において柱穴跡(性格不明遺構)1基を確認したものの、今回設定したトレンチ内においては、縄文時代の遺構・遺物ならびに火山灰は確認できなかった。

(塩地潤一)



第36図 調査地点位置図



第37図 横尾119次調査区全景



第38図 横尾120次調査区全景

横尾遺跡第120次調査

調査面積 81㎡ 調査期間 06.10.18～06.12.13
地域 E 調査担当 塩地潤一・五十川慎也

谷の開口部付近に設定した調査区であり、縄文時代早期後半頃には道路地まで海水が流入し、当該地一帯に形成された入り江にあたる。調査の結果、12世紀後半頃に埋没した自然流路跡（YKS120SD001）を確認し、その下位において堆積構造が認められる砂質土層（同SX002）を検出した。この堆積層（同SX002）からは、轟B式土器深鉢の底部片や条痕文土器深鉢片などが出土しており、縄文時代前期前半頃に埋没したものと判断できる。以上のことから、縄文時代前期前半頃には当該地まで水域が及んでいた可能性は高い。（塩地潤一）

横尾遺跡第122次調査

調査面積 28㎡ 調査期間 06.11.27～06.12.28
地域 E 調査担当 塩地潤一・五十川慎也

貝塚天神社内の3箇所に設定した調査区であり、貝層の範囲確認を調査の目的として、確認調査を実施した。調査の結果、表土直下から混貝土層とトレンチ跡を検出した。混貝土層の下位には、古墳時代の遺物包含層を挟んで上位に土坑を1基、下位に貝層を確認した。トレンチ跡は、昭和40年の調査区であり、これにより、既往の横尾貝塚における調査地点の位置関係が確定できた。

以上のことから、南北約20m、東西約10mの範囲に縄文時代の貝層が良好に遺存していることが判明した。（塩地潤一）



第39図 横尾122次調査区全景

城原・里遺跡第10次調査

調査面積 136.5㎡ 調査期間 06.11.15～07.03.30
地域 F 調査担当 佐藤道文



第40図 城原・里調査区全景



第41図 調査地点位置図

今回の調査では、古代の土器を含む整地状の遺構の下位から、3・4次で発見された建物の延長部が確認されたが、それに引き続く大型建物跡は見つかっていない。ただし、南北方向の柱穴列が検出されており、建物群の一部とみるならば、東西約55mの規模を有すコの字状の建物配置が想定される。南、東側の建物と規模、構造が縮小傾向にあるが、それは建物の性格、場の利用を示すものと考えられる。建物配置、規模の全容把握には至らなかったが、範囲を想定できる所見は得ることができた。今後の確認調査では、具体的な構造及び郡衙と決定する最大要因である正倉の発見が期待される。（佐藤道文）

丹生川坂ノ市条里跡(第9・10地点)

調査面積 3000㎡ 調査期間 06.04.24～06.09.29
地域 E 調査担当 五十川雄也・山本哲也

丹生川坂ノ市条里跡9・10地点は、丹生川上流域の右岸にあたり大字丹川字川原畑(9地点)、ウル島(10地点)に位置する。

第9地点で検出した遺構は、古代末～鎌倉時代と近世の2時期確認できた。古代末～鎌倉時代は、掘立柱建物や井戸跡、土坑、溝跡等を検出した。出土遺物は、かわらけ、瓦器碗・皿、青磁、白磁(四耳壺含む)の碗・皿、磁甎窯系黄釉陶器盤、東播系須恵器鉢、渥美焼甕、常滑焼甕、中国産褐釉陶器長胴壺などである。出土遺物からすると、丹生荘の経営に係るクラスの屋敷地などが考えられる。第10地点は、弥生時代中期の円形竪穴建物跡、中世前期の土壇墓1基を確認した。土壇墓からは、鉄釘、湖州鏡、銅製鈴2個、鉄製品、白磁片、人骨が出土した。(五十川雄也)



第42図 調査地点位置図

丹生川坂ノ市条里跡(試掘・確認調査)

調査面積 3000㎡ 調査期間 06.12.12～07.02.05
地域 E 調査担当 五十川雄也・山本哲也

試掘・確認調査は、大字丹川で実施した。トレンチによる遺構の範囲確認を行ったところ、2ヶ所で遺構の存在が確認できた。概ね、中世の範疇で収まるものである。出土遺物は、かわらけ、吉備系土師器碗、瓦器碗、貿易陶磁器などである。(五十川雄也)

丹生遺跡群(試掘・確認調査)

調査面積 3000㎡ 調査期間 07.01.22～07.02.05
地域 E 調査担当 五十川雄也・山本哲也

試掘・確認調査は、大字丹生で実施した。トレンチによる遺構の範囲確認を行ったところ、4ヶ所で遺跡の存在が確認できた。出土遺物は古墳・古代の土師器・須恵器などである。(五十川雄也)



第43図 鎌倉時代の屋敷跡



第44図 中世墓から出土した湖州鏡と青銅製鈴

当調査地点は大分市西部の大字国分に所在し、国分台地の河岸段丘上標高約47mに立地する。当調査地の広がる段丘面西側の上位段丘上には、野田遺跡（旧石器時代他）・国分台遺跡（縄文時代）・六重原遺跡（縄文・古墳時代）が、東側の下位段丘上には、豊後国分寺跡（古代）が展開する。

遺跡の概要

A区東側のa地点・西側のb地点ともに黒灰色土以下の層序は同じで（第2・4図参照）、遺構検出面は黄灰色土層である。両地点における同層の比高差は約50cmで、a地点が低く、西から東に向かって地形が緩やかに傾斜していると考えられる。

B区は遺構検出面である黄灰色土層が、現代の掘削によって全て削平されており、遺構検出には至らなかった。

A区においては遺構分布に偏りがあり、調査区北西部分で遺構の大半を検出した（第4図参照）。遺構は柱穴・性格不明ビット・土坑が検出され、柱穴跡の中には柱痕を確認したものがある。柱痕が確認されたものとしてはSP007・010～013・015・018～020が挙げられ、SP012・015からは縄文土器片が出土している。また、遺構検出時（黄灰色土）ではあるが、縄文土器片・姫島産黒曜石等が出土している。

SK009は、黄灰色土層より上層である暗黒灰色土層に属する土坑で、寛永通宝が出土している。

遺物（第3図）

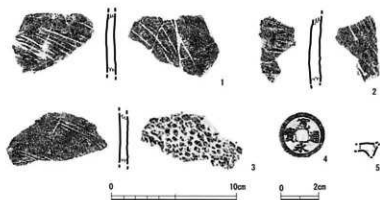
1～3は縄文土器である。1はSP012、2はSP015、3はJ2グリッドより出土した。1・2は内外面ともに貝殻条痕の後ナデを施されている。3は縄文時代早期の押型文土器で、内面は貝殻条痕の後ナデを施し、外面は押型文を施す。4はSK009より出土した寛永通宝（古）である。5は土師器平底部で、A区一括遺物である。高台を有する。

小結

A区において柱穴跡や遺構検出時（黄灰色土）、縄文土器片が多く見受けられ、このことから当調査地点或いは周辺に縄文時代の遺構が展開していたと考えられる。また、A区一括遺物ではあるが、土師器片が出土していることから、古代の遺構の存在も窺える。（水町裕子）



第45図 調査地点位置図



第46図 出土遺物実測図（1/3・1/2）

玉沢地区条里跡第19次調査

調査面積 130㎡ 調査期間 06.04.14～06.05.31
地域 B 調査担当 佐藤道文・奥村義貴・山下朋紀

玉沢地区条里跡に於いて大分市新都心植田中央土地区画整理事業に伴う区画街路建設部分の「玉沢地区条里跡第19次調査」を平成18年4月14日から平成18年5月31日にかけて実施した。調査の結果、大半が溝状遺構であった。その他にピット、水田境の段差も確認している。溝状遺構の多くは近現代の暗渠・境溝・耕作時の窪地であり、それぞれ南北方向及び東西方向に延びるものである。その他微高地上の水田開発時に造られ水路として使用されたと考えられる南北方向と南西・北東方向に延びる溝状遺構（中世）2条と、廃棄された弥生・古墳の土器が確認出来る逆L字状の溝状遺構を1条確認している。

今回の調査区は全面が微高地部分であったが、周辺調査地の微高地上で確認された住居跡は検出されなかった。後世の開発によって消失した可能性と当初から空閑地であった可能性の二つが考えられる。（奥村義貴）



第50図 調査地点位置図

玉沢地区条里跡第20次調査

調査面積 255㎡ 調査期間 06.07.24～06.08.30
地域 B 調査担当 佐藤道文・奥村義貴

玉沢地区条里跡に於いて公共下水道植田処理区宗方2号雨水幹線サイフォン部改修工事に伴う「玉沢地区条里跡第20次調査」を平成18年7月24日から8月30日にかけて実施した。

調査の結果、調査区全面が微高地部分であったが、周辺調査地の微高地上で確認された住居跡は検出されなかった。調査区全面が近世の水田開発による削平を受けており、消失した可能性と空閑地であった可能性の二つが考えられる。今回、中世以前の水田跡は確認されなかったが、調査区南側に東西方向に延びる水路として使用されたと考えられる溝状遺構（中世）を確認した。調査区の南側には、ほぼ同方向に延びる水路が現在も存在する。

調査区の北側に広がる低地を利用した水田に向けての落ち際（微高地と低地の境）が確認されなかったことから、落ち際は本調査区の北側に位置する里道及び宗方3号雨水幹線下に存在すると想定される。（奥村義貴）



第51図 19次全景



第52図 20次全景

玉沢地区条里跡第21次調査

調査面積 137.2㎡ 調査期間 06.08.08～06.09.04
地域 B 調査担当 荻 幸二・佐藤道文

大規模店舗建設に伴う調査である。但し、工法変更により開発面積の大部分において、遺構保護の措置がとられたことからトレンチ調査として実施している。

調査地は、集落が形成される微高地と、低湿な土壌（耕作域）が広がる部分の境に該当すると思われる。調査の結果、中世後半期、近世の水田遺構が確認されたが、目的とした中世の溝状遺構は発見されなかった。各トレンチの土層を検討した結果、水田は微高地の周辺の低地部分に形成されたものと推測される。

（佐藤道文）



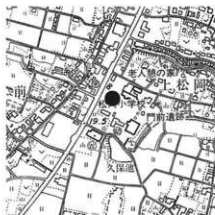
第53図 21次調査区全景

上松岡遺跡

調査面積 444㎡ 調査期間 06.05.13～06.09.04
地域 B 調査担当 荻 幸二

今回の調査は、松岡小学校校舎の増築に伴って行なったものである。平成17年8月に実施された試掘調査により、予定地の西半部に遺構が確認されており、ここを中心として本調査を実施した。

調査の結果、中世の溝状遺構2、時期不明の土坑、焼土坑等を検出した。中世の溝状遺構は、出土遺物から14世紀代に埋没したものと推定され、土層の状況から水路として築造されたものと考えられる。調査区の西端部は標高差1m程度の落ち込みとなっており、中世の遺物が包含されているが、プラントオパール分析によれば水田ではなく、湿地と判断された。このため、溝状遺構に関連する水田については、調査区北側もしくは東側に展開している可能性が考えられる。調査地点が水田化するのには近世と考えられる。（高島 豊）



第54図 調査地点位置図



第55図 調査区全景空中写真（上が北）



第56図 中世溝SD01土層断面（南から）

高来山横穴墓群・高来山第2・第3横穴墓群・漆間横穴墓群・小柳遺跡・六部塚古墳・虎御前古墳

調査面積	380㎡	調査期間	06.07.25～06.08.25
地域	B	調査担当	塩地潤一・佐藤道文・宮田剛・羽田野裕之・山下朋紀

今回の調査は、大規模宅地造成に伴ったものである。調査の結果、横穴墓15基、石蓋土壇墓、主体部に箱式石棺墓を有す古墳が確認された。その中で注目されるのが、高来山横穴墓（1号墓）、漆間横穴墓群（3号墓）である。高来山横穴墓群1号墓は、玄室内部は全壁面に赤色顔料を塗布しており、床面には砂利が敷かれていた。また奥壁中央部分に方形を呈す突起状の施設が作り出されており、この特徴は筑後、肥後地域の影響を受けたものと考えられている。漆間横穴墓群3号墓の玄室内部は、高来山横穴墓同様壁面全体に赤色顔料が施されていた。出土遺物が特筆される。銅鏡、鉄刀、玉（ガラス、石）が確認され、玉は約160点あり、時期については不明であるが、羨道部の埋土中から土師器環破片が出土しており、埋没時期について判断する参考とした。（佐藤道文）



第57図 調査地点位置図



第58図 高来山第1号横穴詳細



第59図 漆間第3号横穴遺物出土



第60図 漆間横穴墓群遠景



第61図 調査区遠景

第Ⅳ章 受贈図書目録

1. 調査報告書

宮城県	宮城歴史資料保存ネットワーク 「文化財の震災保護対策に関する調査研究事業」報告書 平成17～18年度 文化庁委嘱事業	2007
	仙台市教育委員会 仙台北城跡 仙台市文化財調査報告書第297集	2006
	仙台北城跡登城路1次調査 仙台市文化財調査報告書 第300集	2006 他3冊
山形県	山形市教育委員会 双葉町道跡・城南町道跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第25集	2006 他2冊
福島県	いわき市教育委員会 白土城跡 いわき市埋蔵文化財調査報告書 第116冊	2006 他4冊
	郡山市教育委員会 荒井協田道跡(Ⅱ区) ー第16次発掘調査報告ー	2006 他8冊
東京都	財団法人東京生涯学習文化財団 多摩ニュータウン道跡 ーNo.874道跡 No.884道跡ー	2006
	東京都埋蔵文化財センター 多摩ニュータウン道跡 ーNo.72・795道跡 No.796道跡ー 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第50集	2006 他6冊
	府中市教育委員会 武蔵国府の調査 27	2004 他7冊
	千代田区教育委員会 富士見二丁目道跡	2006
	お茶の水女子大学文教育学部博物館学研究室 鹿児島大学法文学部比較考古学研究室 鹿児島県指宿市数領道跡の発掘調査	2006
	国分寺市道跡調査会 武蔵国分寺跡発掘調査概報33	2006
	加藤建設㈱ 埋蔵文化財調査部 武蔵国府関連道跡調査報告	
	有楽町駅前第1地区市街地再開発組合 東京都千代田区 有楽町二丁目道跡	2006
神奈川県	海老名市教育委員会 秋葉山古墳群第3・4号墳発掘調査報告書	2004 他4冊
	専修大学文学部考古学研究室 山名伊勢塚古墳発掘調査概要(4)	
埼玉県	寄居町教育委員会 史跡鉢形城跡 史跡鉢形城跡調査報告 第三集	2006
千葉県	財団法人山武都市文化財センター 池田丸山道跡 山麓久道跡 沖荒久道跡 金谷郷道跡群VI	2002 他9冊
茨城県	石岡市教育委員会 石岡市内道跡調査報告書	2006
山梨県	甲府市教育委員会 甲府市内道跡Ⅲ 甲府市文化財調査報告31	2006 他2冊
新潟県	胎内市教育委員会 市内道跡Ⅰ 胎内市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集	2006 他3冊
富山県	財団法人 富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所 下老子貫川道跡発掘調査報告 能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V	2006
石川県	小松市教育委員会 額見町道跡Ⅰ	2006 他6冊
	野々市市教育委員会 栗田道跡(第10次) 三納アライヤ道跡(第1・2次) 三納トヘイダグシ道跡(第1・3次)	2006
福井県	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 栗東・坪江道跡 福井県埋蔵文化財調査報告書 第88集 浅見金道跡・三重山城跡・浅見東山道跡 福井県埋蔵文化財調査報告書 第89集	2006 他3冊 2006

	寛政道跡 福井県埋蔵文化財調査報告 第90集	2006
	吉野道跡(桑下地区・大明地区) 福井県埋蔵文化財調査報告 第93集	2006
	福井県立若狭歴史民俗資料館	
	若狭地方主要前方後円墳総合調査報告書	1997
	福井市文化財保護センター	
	福井城跡 V	2006
	小浜市企画総務部 企画調査課	
	小浜市重要道跡認知調査報告書Ⅱ	2006
大阪府	豊中市教育委員会	
	金寺山廃寺 第1・2・3次発掘調査報告書	2004 他3冊
	八尾市教育委員会	
	八尾市内道跡平成17年度発掘調査報告書	2006 他2冊
	高槻市立文化財調査センター	
	嶋上道跡群30 高槻市文化財調査報告33	2006
	熊取町教育委員会	
	成合寺道跡発掘調査概要報告書・I 熊取町埋蔵文化財調査報告 第46集	2006 他1冊
	貝塚市教育委員会	
	貝塚市道跡群発掘調査概要28 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第70集	2006
	堺市教育委員会	2005 他5冊
兵庫県	尼崎市教育委員会	
	平成16年度1期補助事業 尼崎市内道跡復旧・復興事業に伴う発掘調査 尼崎市の文化財調査報告 第35集	2005 他2冊
	赤穂市教育委員会	
	木皮谷11号古墳発掘調査報告書 赤穂市の文化財調査報告書64	2006 他1冊
	大手前大学史学研究所	
	氏用津道跡・御崎本町地点発掘調査報告書- 大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター- 研究報告 第1号	2006
	夢前町教育委員会	
	播磨宮島城跡発掘調査報告書 夢前町文化財調査報告書 第1集	2006
	芦屋市教育委員会	他12冊
	加東市教育委員会	
	加東市埋蔵文化財調査報告概要 加東市埋蔵文化財報告 2	2007
京都府	城陽市教育委員会	
	城陽市埋蔵文化財発掘調査報告書51	2006 他2冊
	同志社大学歴史資料館	
	若自忠在地道跡 同志社小学校建設に伴う発掘調査報告書- 同志社歴史資料館調査研究報告 第6集	2006
滋賀県	大津市教育委員会	
	近江国府跡開通道跡発掘調査報告書Ⅱ 大津市埋蔵文化財調査報告書 (41)	2006
	瀬田文化財修理所	
	文化財修理報告書 vol.7	2006
	滋賀県教育委員会事務局 安土城跡研究所	
	史跡観音寺城跡保存管理計画報告書	2006 他4冊
	東近江市教育委員会	
	百濟寺道跡発掘調査報告書 東近江市埋蔵文化財調査報告書Ⅰ	2006 他1冊
奈良県	財団法人桜井市文化財協会	
	東田大塚古墳	2006
	河合町教育委員会	
	長妻道跡Ⅲ 河合町文化財調査報告書 第18集	2006
	奈良市教育委員会	
	葛原加茂原市玉田原東地区における埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅰ 袖ノ川イセダ・キトラ道跡 永岡道跡	2006
	奈良県立橿原考古学研究所	
	ノムダ古墳 奈良県立橿原考古学研究所調査概要 第93冊	他9冊
和歌山県	和歌山市教育委員会	
	和歌山市内道跡発掘調査概要報告書 -平成16年度-	2005
	岩出市教育委員会	
	根来寺坊院跡 -根来公園墓地西駐車場工事に伴う発掘調査報告書-	2005 他2冊
	財団法人 和歌山市都市整備公社	
	和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報 -平成16年度(2004年度)-	2007

愛知県	豊川市教育委員会	
	史跡三河4分尼寺跡保存整備事業報告書	2006 他2冊
	愛知学院大学文学部歴史学科	
	愛知県春日井市明道跡の発掘記録 愛知学院大学考古学発掘調査報告1	2006 他1冊
	名古屋大学文学部研究科考古学研究室	
愛知県	東山114号室発掘調査報告書	2006
	豊田市教育委員会	
	敷田1～4号室跡 切山1～4号室跡 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集	2006 他1冊
	名古屋市教育委員会	
	埋蔵文化財調査報告書53 白鳥4号墳・白鳥7号墳 片山神社道跡(第4次) 正木町道跡(第18・19次) 高蔵道跡(第51～53次) 名古屋市文化財調査報告書68	2006 他9冊
名古屋	名古屋市上下水道局下水道本部	
	第4次中川区(田二丁目付近)下水道工事に伴う調査 田道跡発掘調査報告書	2004 他2冊
	名古屋市長岡考古資料館	
	堀・蔵道跡発掘調査報告書 サン・サカエビル建設に伴う発掘調査	2006 他4冊
	(財)岐阜市教育文化振興事業団	
岐阜県	芥見町屋道跡 (財)岐阜市教育文化振興事業団報告書 第14集	2006 他1冊
	岐阜市教育委員会	
	平成16年度・17年度岐阜市市道内道跡発掘調査報告書	2006
	大垣市教育委員会	
	矢道長塚古墳Ⅱ 大垣市埋蔵文化財報告書 第16集	2006 他3冊
三重県	四日市市教育委員会	
	久保谷道跡 四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書36	2006 他3冊
	津市教育委員会	
	北山氏館跡	2006 他3冊
	鈴鹿市考古博物館	
三重県	伊勢4分寺跡Ⅱ	2006 他5冊
	三重県埋蔵文化財センター	
	庄木橋穴草群・庄木1号墳・庄木城跡・庄木道跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書227-8	2006 他15冊
	松阪市文化財センター	
	平成16年度文化財調査報告	2006 他3冊
鳥取県	鳥取県教育委員会	
	基本史跡発掘調査研究年報2005	2006 他1冊
鳥取県	浜田市教育委員会	
	史跡 石見4分寺跡・史跡 石見4分文尼寺跡 平成14～17年度市内道跡発掘調査報告書	2006 他2冊
	財団法人 松江市教育文化振興事業団	
	久保道跡発掘調査報告書 松江市文化財調査報告書 第100集	2006 他4冊
	出雲市教育委員会	
鳥取県	因陀史跡内容墳墓群	2006 他8冊
	津和野町教育委員会	
	津和野町内発掘調査報告書1	2006
	鳥取県教育委員会	
	史跡出雲国府跡4 一日津田地区の発掘調査1ー 堀土記の丘地内道跡発掘調査報告書17	2006 他9冊
岡山県	総社市教育委員会	
	古代山城 堀ノ城2 総社市埋蔵文化財発掘調査報告書19	2006
	岡山県古代宮内文化財センター	
	上田道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書195	2006 他8冊
	岡山市埋蔵文化財センター	
広島県	岡山市埋蔵文化財センター年報5(平成16年度)	2006 他5冊
	広島市教育委員会	
	福山城東外堀跡発掘調査報告書ーマンション建設に伴う発掘調査報告書ー	2006
	福山市埋蔵文化財発掘調査団	
	泉山城跡(東第1郭)発掘調査報告書	2006 他1冊
広島県	東広島市教育委員会	
	瀬戸神社南道跡発掘調査報告書 東広島市教育委員会発掘調査報告書 第32集	2006 他3冊

	財団法人 東広島市教育文化振興事業団文化財センター 四日市道跡発掘調査報告書Ⅲ-第7・8 (C区)次調査- 文化財センター調査報告書 第48冊	2005	他7冊
	広島大学研究科考古学研究室 香取峠道跡群発掘調査年報 XX	2006	
	財団法人 広島県教育事業団 中国横断自動車道松江建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告3 一池ノ奥道跡- 財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書 第19集	2007	他2冊
山口県	山口県埋蔵文化財センター 萩城跡(外堀地区)Ⅱ	2006	他6冊
	山口市教育委員会 中込田道跡Ⅱ	2006	他1冊
	下関市教育委員会 川瀬尾路跡4 (中田・岩光・大塚・寺田・友田・道中江地区) 下関市文化財調査報告書Ⅰ	2005	
	防府市教育委員会 平成16年度防府市内道跡発掘調査概要 防府市埋蔵文化財調査概要0601	2006	
徳島県	豊後町教育委員会 守護町跡道跡東端地点発掘調査概要報告書Ⅰ 徳島市教育委員会 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要14	2004	他3冊
	徳島大学埋蔵文化財調査室 倉三島道跡2 - 工学部実習地・地域共同研究センター・徳島大学埋蔵文化財調査報告書 第3巻	2006	
	財団法人 徳島県埋蔵文化財センター お塚古墳地 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第58集	2005	他9冊
	鳴門市教育委員会 天河別神社古墳群Ⅰ号墳 鳴門市教育委員会文化財調査報告書4	2006	
香川県	高松市教育委員会 高松市内道跡発掘調査概要 平成17年度国庫補助事業		他9冊
	丸亀市教育委員会 中の道跡 第12次調査	2006	
愛媛県	財団法人松山市生涯学習振興財団 松山市埋蔵文化財調査年報17 平成16年度 今治市教育委員会 高城津蔵寺道跡Ⅰ - 第1〜4調査区- 今治市埋蔵文化財調査報告書 第75集	2005	他13冊
	財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター 神宮太郎九道跡 愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第123集	2005	他8冊
高知県	高知大学人文部考古学研究室 大元神社古墳調査報告書 (財)高知県文化財埋蔵文化財センター 林田道跡Ⅲ (財)高知県文化財埋蔵文化財センター調査報告書 第92集	2005	他7冊
福岡県	福岡県教育委員会 日誌道跡Ⅱ 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第24集	2006	他5冊
	福岡市教育委員会 有田・小田部40 - 有田道跡群第205次調査報告書- 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第869集	2006	他45冊
	(財)北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室 小倉城跡 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第343集	2005	他21冊
	太宰府市教育委員会 宝満山道跡群5 太宰府市の文化財 第84集	2006	他4冊
	豊前市教育委員会 鬼木西反田道跡(道橋編)・鳥越今井野道跡 豊前市文化財調査報告書 第20集	2006	他1冊
	粕屋町教育委員会 粕屋町文化財分布地図 粕屋町文化財調査報告書 第22集	2006	他2冊
	志免町教育委員会 志免館遺跡所舎宅調査報告書 志免町文化財調査報告書 第16集	2006	
	宇美町教育委員会 宇美中学校道跡 宇美町文化財調査報告書 第16集	2006	

	久留米市教育委員会		
	良恒道跡Ⅴ 福岡県久留米市北野町赤河所在道跡の調査 久留米市文化財調査報告書 第214集	2005	他17冊
	高田町教育委員会		
	上楠田地区道跡 上楠田松浦道跡 上楠田所田道跡 高田町文化財調査報告書 第8集	2006	他2冊
	大刀洗町教育委員会		
	葉崎道跡Ⅱ 大刀洗町文化財調査報告書 第33集	2008	他4冊
	大野城市教育委員会		
	大野城市の道跡⑨ 大野城市の文化財 第38集	2006	他3冊
	甘木市教育委員会		
	旧田代家住宅 甘木市文化財調査報告書 第65集	2005	他5冊
	朝倉町教育委員会		
	宮野地区道跡群 朝倉町文化財調査報告書 第11集	2006	
	筑後市教育委員会		
	山ノ井南野道跡 筑後市文化財調査報告書 第59集	2005	他14冊
	夜須町教育委員会		
	竹ノ子道跡 夜須町文化財調査報告書 第58集	2003	他2冊
	遠賀町教育委員会		
	鬼津横穴群 遠賀町文化財調査報告書 第17集	2006	
	山川町教育委員会		
	イモジB道跡 山川町文化財調査報告書 第3集	2000	他2冊
	筑紫野市教育委員会		
	原道跡Ⅱ 筑紫野市文化財調査報告書 第86集	2006	他4冊
	那珂川町教育委員会		
	安達台道跡群 福岡県筑紫郡那珂川町大字安達所在道跡群の調査 那珂川町文化財調査報告書 第67集	2006	他1冊
	小都市教育委員会		
	三沢北中區道跡5地点 小都市文化財調査報告書 第204集	2005	他5冊
佐賀県	神埼町教育委員会		
	八子六本里木道跡 14区 神埼町文化財調査報告書 第87集	2006	他3冊
	神埼市教育委員会		
	八子六本里木道跡12区 神埼市埋蔵文化財調査報告書 第3集	2007	他2冊
	鳥栖市教育委員会		
	今泉道跡 鳥栖市文化財調査報告書 第77集	2006	他2冊
	鹿島市教育委員会		
	永吉良道跡 鹿島市文化財調査報告書 第15集	2006	
	佐賀県教育庁		
	大江前道跡 佐賀県文化財調査報告書 第167集	2006	他1冊
	小城市教育委員会		
	ハッパ道跡 小城市文化財調査報告書 第14集	1993	他8冊
	唐津市教育委員会		
	唐津市内道跡確認調査(22) 唐津市文化財調査報告書 第126集	2006	他6冊
	佐賀市教育委員会		
	佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書-2003年度- 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第1集	2006	他11冊
	玄海町教育委員会		
	諸家文書目録 玄海町文化財調査報告書 第11集	2005	他1冊
	久保田町教育委員会		
	上恒安道跡2区 久保田町文化財調査報告書 第4集	1999	他1冊
長崎県	壱岐市教育委員会		
	原の辻道跡群の久保A地点・原の辻道跡群の久保B地点 壱岐市文化財調査報告書 第3集	2006	他3冊
	松浦市教育委員会		
	松浦市内道跡確認調査(6) 松浦市文化財調査報告書 第21集	2006	
熊本県	玉名市教育委員会		
	玉名市内道跡調査報告書Ⅱ 平成15・16年度の調査 玉名市文化財調査報告書 第15集	2006	
	史跡 永安寺東古墳・永安寺西古墳埋存整備事業報告書		
	八代市立博物館来たるの森ミュージアム		
	松井文庫所蔵古文書調査報告書10	2006	

旭志村教育委員会	
旭・城跡 旭志村文化財調査報告 第3集	1996
蒲池市教育委員会	
小野崎道跡 蒲池市文化財調査報告 第1集	2006
七城町教育委員会	
小迫道跡 七城町文化財発掘調査報告書 第1集	2001 他1冊
益城町教育委員会	
城の本2号墳 益城町文化財調査報告 第20集	2006
南岡町教育委員会	
今原道跡 南岡町文化財調査報告 第10集	2006
宇土市教育委員会	
藤貝塚・馬門石石切場跡 宇土市埋蔵文化財調査報告書 第28集	2006
人吉市教育委員会	
史跡人吉城XIV 人吉市文化財調査報告書 第24集	2006
八代市教育委員会	
宮地年神道跡 八代市文化財調査報告書 第31集	2006 他3冊
熊本県立美術館古墳館	
陶竹城跡 -第26、27次調査報告-	2006
熊本市教育委員会	
古町道跡 第1次調査区 発掘調査報告書	2004 他6冊
阿蘇市教育委員会・宗教法人 阿蘇神社	
阿蘇市指定有形文化財 阿蘇神社建造物調査報告書 阿蘇市文化財調査報告 第1集	2006
熊本町教育委員会	
平成17年度 熊本町内道跡発掘調査報告書 熊本町文化財調査報告書 第20集	2007
大分県	
臼杵市教育委員会	
後通田原道跡 大分県臼杵市大字左津留前道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
豊後大野市教育委員会	
高森道跡 豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集	2006 他1冊
竹田市教育委員会	
史跡岡城跡XX	2004 他8冊
杵築市教育委員会	
小瀬山古墳発掘調査報告書 杵築市埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集	2006 他1冊
九重町教育委員会	
町田立村道跡-岐部氏館跡- 九重町文化財調査報告 第29輯	2006
大分県教育庁埋蔵文化財センター	
上の原塚六墓群 大分県教育庁埋蔵文化財センター報告書 第7集	2006 他8冊
佐伯市教育委員会	
神ノ原道跡発掘調査報告書	2006
別府市教育委員会	
存本方元道跡	2006
中津市教育委員会	
定留道跡 八度ガソク地区 発掘調査報告書 中津市文化財調査報告 第38集	2006 他3冊
国東市教育委員会	
史跡安国寺弘法道跡保存修理工事(災害復興)事業推進報告書 大分県国東町文化財整備報告書 第3集	2006
宮崎県	
宮崎町教育委員会	
山田第1道跡 清武町埋蔵文化財調査報告書 第18集	2006 他2冊
宮崎県埋蔵文化財センター	
下耳坊第3道跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第125集	2006 他25冊
都城市教育委員会	
坂元A道跡 坂元B道跡 都城市文化財調査報告書 第71集	2006 他8冊
宮崎市教育委員会	
下山道跡 佐土原町文化財調査報告書 第20集	2001 他2冊
高脚町教育委員会	
町内道跡発掘調査報告書~毛作第1道跡確認調査・持田道跡確認調査・持田古墳群古墳範囲確認調査4~ 高脚町埋蔵文化財調査報告書 第13集	2006

東京都	本城町教育委員会	
	町内道跡発掘調査報告書Ⅱ 本城町文化財調査報告書 第8集	2006
	小林市教育委員会	
	市内道跡 小林市文化財調査報告書 第22集	2006
	西都市教育委員会	
	西部原地区道跡Ⅱ 西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集	他5冊
	三股町教育委員会	
	三股町内道跡Ⅵ 三股町文化財調査報告書 第8集	2006
	えびの市教育委員会	
	北岡松地区道跡群 えびの市埋蔵文化財調査報告書 第44集	2007
鹿児島県	宮崎県新宮町教育委員会	
	新宮町の埋蔵文化財(改訂版) 新宮町文化財調査報告書 第46集	2007 他2冊
	伊仙町教育委員会	
	カミヤキ古窯跡群Ⅳ 伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(12)	2005
	知覧町教育委員会	
	知覧城跡(三) 知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集	2006
	出水市教育委員会	
	胆原道跡 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(14)	2006
	鹿児島市教育委員会	
	鉢屋A道跡 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(43)	2005 他7冊
鹿児島県	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	三角山道跡群(3)(三角山I道跡) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(96)	2006 他8冊
	南種子町教育委員会	
	龍庵道跡・今平道跡 南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(10)	2004 他6冊
	鹿児島県曾根郡大隅町教育委員会	
	中道Ⅱ道跡、前堀道跡Ⅱ、久保崎Ⅲ道跡Ⅱ、元屋敷道跡 大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書(39)	2005 他7冊
2. 定例刊行物・図録等		
北海道	財団法人 北海道埋蔵文化財センター	
	チエタ第16号	2006 他2冊
宮城県	仙台市教育委員会	
	仙台城跡発掘基本計画	2006 他2冊
山形県	山形市教育委員会	
	山形市埋蔵文化財調査年報 -平成16年度-	2006
東京都	東京都埋蔵文化財センター	
	東京都埋蔵文化財センター 研究論集 XXⅡ	2006
	早稲田大学考古学	
	古代 119号	2006
	東京国立博物館	
	特別展 華麗なる伊万里、甕の京焼	2006
	世田谷区立郷土資料館	
	特別展図録 「野の関人 丸山永蔵の『生』」	2006 他3冊
	社団法人 日本数史遺蹟会	
	全国戦災史実調査報告書 -証言・工業に関する記録-	2007
千葉県	昭和女子大学国際文化研究所	
	国際文化研究所紀要 Vol.9 2003 ベトナム・ホアン・の学際的研究	2004
	国立歴史民俗博物館	
	国立歴史民俗博物館研究報告 第125集	2006 他8冊
	財団法人山武都市文化財センター	
	財団法人 山武都市文化財センター年報 No.19付編	2005 他2冊
栃木県	足利市教育委員会	
	平成16年度 文化財保護年報 足利市埋蔵文化財調査報告 第54集	2006 他1冊
群馬県	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	
	研究紀要24	2006 他2冊
富山県	財団法人 富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	
	平成17年度 埋蔵文化財年報	2006 他2冊

石川県	金沢市	
	金沢市史 通史編3 近代	2006
福井県	福井県教育委員会 福井文化財調査	
	八日市地方道跡 一地中から今、弥生時代が甦るー 県文化財指定記念特別展	
福井県	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
	年報19 平成15年度	2005
福井県	福井市文化財保護センター	
	平成15年度 年報	2005
大阪府	八尾市教育委員会	
	やおしの埋蔵文化財	2006 他1冊
大阪府	貝塚市教育委員会	
	地蔵堂丸山古墳と大塚の前期古墳 平成16年度特別展図録	2005 他4冊
大阪府	高槻市立文化財調査センター	
	平成15・16年度 高槻市文化財年報	2006 他2冊
兵庫県	尼崎市教育委員会	
	尼崎市埋蔵文化財遺跡分布地図及び手引き (平成18年度版)	2006
兵庫県	大手前大学史学研究所	
	大手前大学史学研究所紀要 第5号	2005 他2冊
京都府	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	
	京都府埋蔵文化財情報 第99号	2006 他2冊
京都府	財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター	
	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成16年度	2006 他1冊
京都府	同志社大学歴史資料館	
	同志社大学歴史資料館館報 第9号	2006
奈良県	奈良市教育委員会	
	奈良市埋蔵文化財センター紀要2004	2005 他1冊
奈良県	奈良市立埋蔵文化財センター	
	前方後円墳の終焉とその後ー珠城山古墳群から豊ノ原古墳へー	2006
奈良県	財団法人 元興寺文化財研究所	
	古きをまもる新しき技ー保存科学への招待ー	2006 他8冊
奈良県	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター	
	埋蔵文化財ニュース122	2006 他4冊
奈良県	天理大学歴史文化学考古学・民俗学研究室	
	天理大学考古学・民俗研究室紀要「古事」 第10冊	2006
奈良県	田原町教育委員会	
	秋季企画展 「弥生時代の青銅器群」	2006 他2冊
奈良県	財団法人 板井市文化財協会	
	平成18年度 秋季特別展示図録 「板井の井戸」 板井市立埋蔵文化財センター展示図録 第30冊	2006 他1冊
奈良県	奈良文化財研究所 飛鳥資料館	
	飛鳥の考古学2006	2006
奈良県	奈良大学文学部文化財学科	
	文化財情報 第23・24集 水野正好先生追悼記念論集	2006
奈良県	奈良県立橿原考古学研究所	
	古墳 第118号	2006 他8冊
奈良県	独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター	
	動物考古学の手引き	2006
和歌山県	有田川町教育委員会	
	平成17年度 有田川町埋蔵文化財調査年報 有田川町文化財調査報告書 第1集	2005 他1冊
愛知県	南山大学人類学博物館	
	南山大学人類学博物館紀要 第24号	2006 他1冊
愛知県	豊田市教育委員会	
	豊田市郷土資料館だより No.55	2006 他4冊
愛知県	名古屋大学文学部研究科考古学研究室	
	名古屋大学文学部研究科考古学論集 考古学技術 第21集	2006
愛知県	財団法人瀬戸市文化財調査会	
	平成18年度企画展 「江戸時代のやきものー生産と流通ー」	2006 他3冊

	名古屋市見晴台考古資料館 年報23	2006 他1冊
岐阜県	タリビピアセンター 平成17年度タリビピアセンター年報 No.12	2006 他3冊
三重県	鈴鹿市考古博物館 鈴鹿市考古博物館年報7 三重県埋蔵文化財センター 平成18年度 第25回三重県埋蔵文化財展 北畠氏とその時代	2006 2006 他6冊
岡山県	岡山県古代官儀文化財センター 所報古簡 第40号 岡山県埋蔵文化財センター 国指定シンボジウム記録 一 大船小船山史と路の謎に迫る一	2006 他2冊 2006 他1冊
山口県	下関市立考古博物館 研究紀要 第10号 山口県教育委員会 山口県埋蔵文化財年報 5	2006 他2冊 2006 他2冊
徳島県	財団法人 徳島県埋蔵文化財センター 徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.16	2006
愛媛県	西予市教育委員会 古代ローマンの里敷園活用基本計画書 財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター 愛比亮 - 平成17 (2005) 年度年報 -	2005 2006 他1冊
高知県	(財)高知県文化財調査センター 高知県埋蔵文化財センター年報 第14号	2006 他2冊
福岡県	(財)北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室 研究紀要 20 豊前市教育委員会 ふぜん黎明 求古園資料館2005年秋の特別展図録 九州大学総合研究博物館 九州大学総合研究博物館ニュース (No.6) 久留米市教育委員会 筑後府通信 vol.3 北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B類歴史 第2号 行橋市歴史資料館 平成18年度企画展 「第8回 行橋の先達の歩み展」 九州歴史資料館 九州歴史資料館 研究論集 31 博物館等連絡推進九州会議 文明のクロスロード 第81号 甘木市教育委員会・甘木市立秋月小学校 ぼく・私の秋月 朝倉市教育委員会・筑前町教育委員会・東峰村教育委員会 あさくらのまつり 甘木市教育委員会 自然ハンドブック 野鳥 独立行政法人国立博物館 九州国立博物館 文化交流展がま公式ガイドブック アジアージュ 北筑後文化財行政連絡協議会 筑後川流域の弥生時代の村とくらし 夜須町教育委員会 あさくらの森 九州大学総合研究博物館 九州大学総合研究博物館ニュース (No.7) 行橋市歴史資料館 平成18年度秋季特別展 「匠の技ー京都平野の名品展ー」	2006 他1冊 2006 2006 他2冊 2006 他1冊 2006 他2冊 2006 他1冊 2006 他2冊 2006 他2冊 2006 他1冊 2006 他2冊 2006 他13冊 2006 他2冊 2006 他1冊

	山川町教育委員会	
	やまかわ100年のあゆみ やまかわ誕生100周年記念誌	2007
	七隈史学会	
	七隈史学 第8号	
佐賀県	佐賀県教育庁	
	佐賀県文化財年報 11	2006
熊本県	熊本大学工学部建築学教室	
	熊本の民家資料集	2006
	熊本大学文学部考古学研究室	
	熊本大学文学部考古学研究室報? 第41集	2006
	熊本市立熊本博物館	
	熊本博物館館報 2006 No.18	
大分県	大分県立先哲史料館	
	陸の道・海の手・人・もの・文化の大動脈 - 平成17年度秋季企画展	2005 他2冊
	大分県立歴史博物館	
	大分県立歴史博物館研究紀要 7	2006 他3冊
	九重町教育委員会	
	九重町歴史資料館年報 2006	2006
	大分県教育庁埋蔵文化財センター	
	大分県埋蔵文化財年報14 平成16年度のまとめ	2006
	大分市大森地区文化財調査会	
	平成17年度 大佐井 第23号	2006 他1冊
	佐伯市教育委員会	
	佐伯市戦争遺跡 道西山・長島山 個人	2006
	NPO法人おおいた豊後ルネサンス	
	SORIN	2006
	別府大学附属博物館	
	別府大学博物館だより No.47	2005
	大分県教育委員会	
	おおいたの歴史と文化 今に生きる郷土の歴史	2007
宮崎県	宮崎県埋蔵文化財センター	
	埋蔵文化財通しみやざき 第1号	
鹿児島県	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	研究紀要・年報「縄文の森から」第4号	2006



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ますぐろ）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

（昭和41年5月26日決定）

大分市埋蔵文化財調査年報 18

2007

発行日

平成19年12月28日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-0435 (097)534-6111
